

第4章 生活領域の政策課題

1. 生活価値観の選択（問5）

（1） 県民の生活価値観（問5全体）

県民の生活に対する考え方(生活価値観)に関して、8つの項目について回答をもとめた。

(2)仕事と余暇に関する価値観では、余暇優先(56.2%)が仕事優先(41.7%)を上回っている。

(3)精神的豊かさや物質的豊かさに関する価値観では、精神的豊かさ重視(77.4%)が8割弱を占め、物質的豊かさ重視(20.6%)を大きく上回っている。

(4)女性の家事専念と社会進出に関する価値観では、社会進出(80.2%)が8割を占め、家事・育児専念(18.0%)を大きく上回っている。

(5)男性の家事専念と社会活動に関する価値観では、家事・育児専念(54.7%)が社会で活動(43.4%)を上回っている。

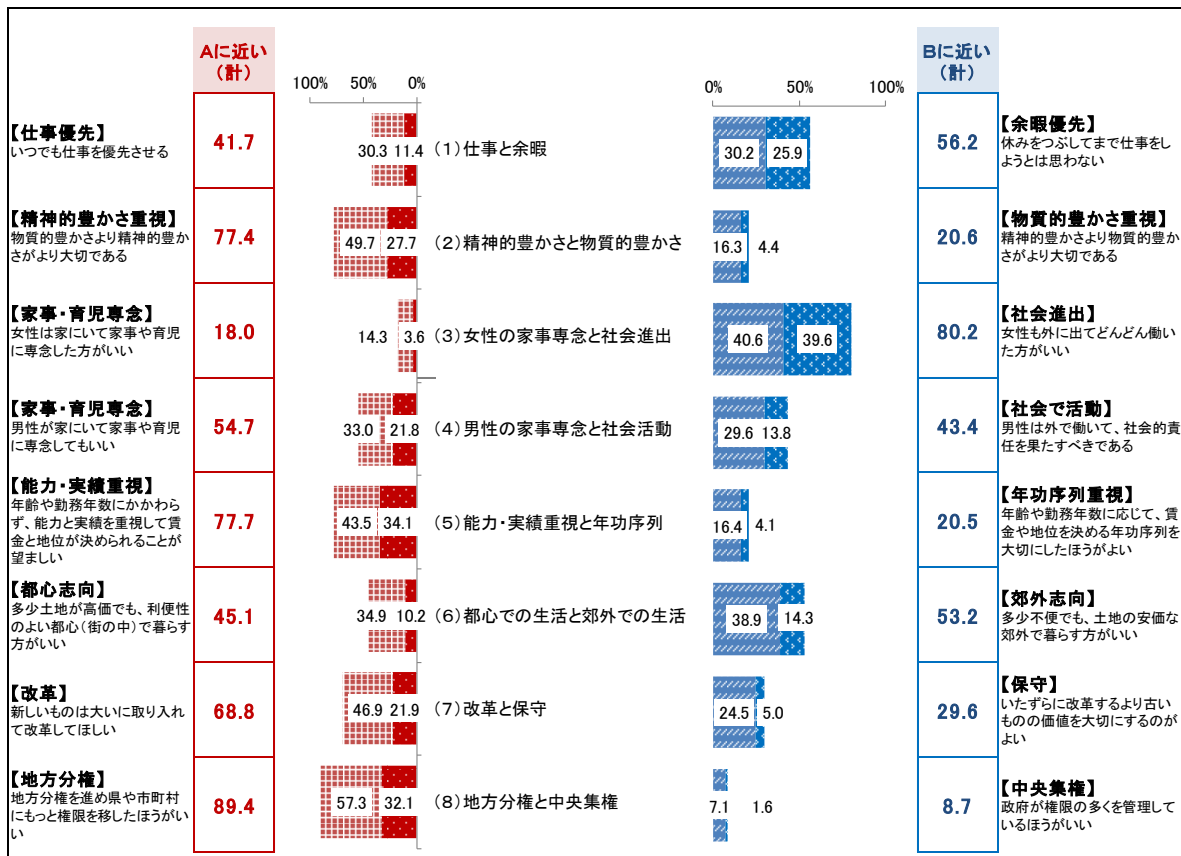
(6)能力・実績重視と年功序列に関する価値観では、能力・実績重視(77.7%)が8割弱を占め、年功序列重視(20.5%)を大きく上回っている。

(7)都心での生活と郊外での生活に関する価値観では、郊外志向(53.2%)と都市志向(45.1%)が5割前後で拮抗している。

(8)改革と保守に関する価値観では、改革(68.8%)が7割弱を占め、保守(29.6%)を上回っている。

(9)地方分権と中央集権に関する価値観では、地方分権(89.4%)が9割弱を占め、中央集権(8.7%)を大きく上回っている。

図表Ⅱ-4-1 県民の生活価値観（全体）



(2) 仕事と余暇に関する価値観 (問5-1)

仕事と余暇に関する価値観について、時系列で見ると、余暇優先は平成21年を除いて徐々に増加し、今回調査(56.2%)でも5割を超え、仕事優先派(41.7%)を14.5ポイント上回っている。

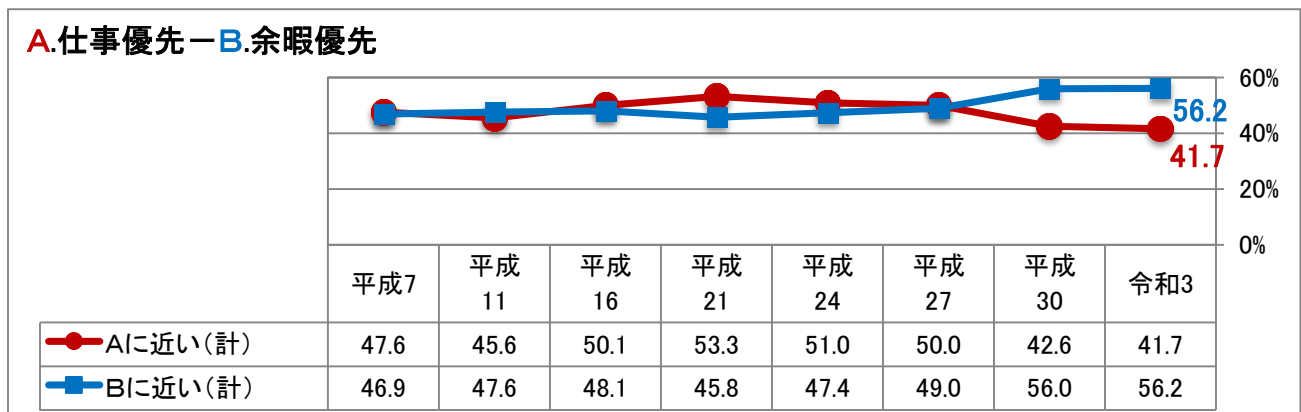
地域別にみると、仕事優先派の割合は宮古(54.7%)が、余暇優先派の割合は那覇市(58.0%)が最も高い。

年代別にみると、余暇優先派の割合は10~30代の若年層では6割を超えるが、年代が高まる(60代除く)とともに低下し、代わって仕事優先派の割合が高まる。

性別で見ると、仕事優先派は男性(46.0%)が女性(38.1%)よりも高い。

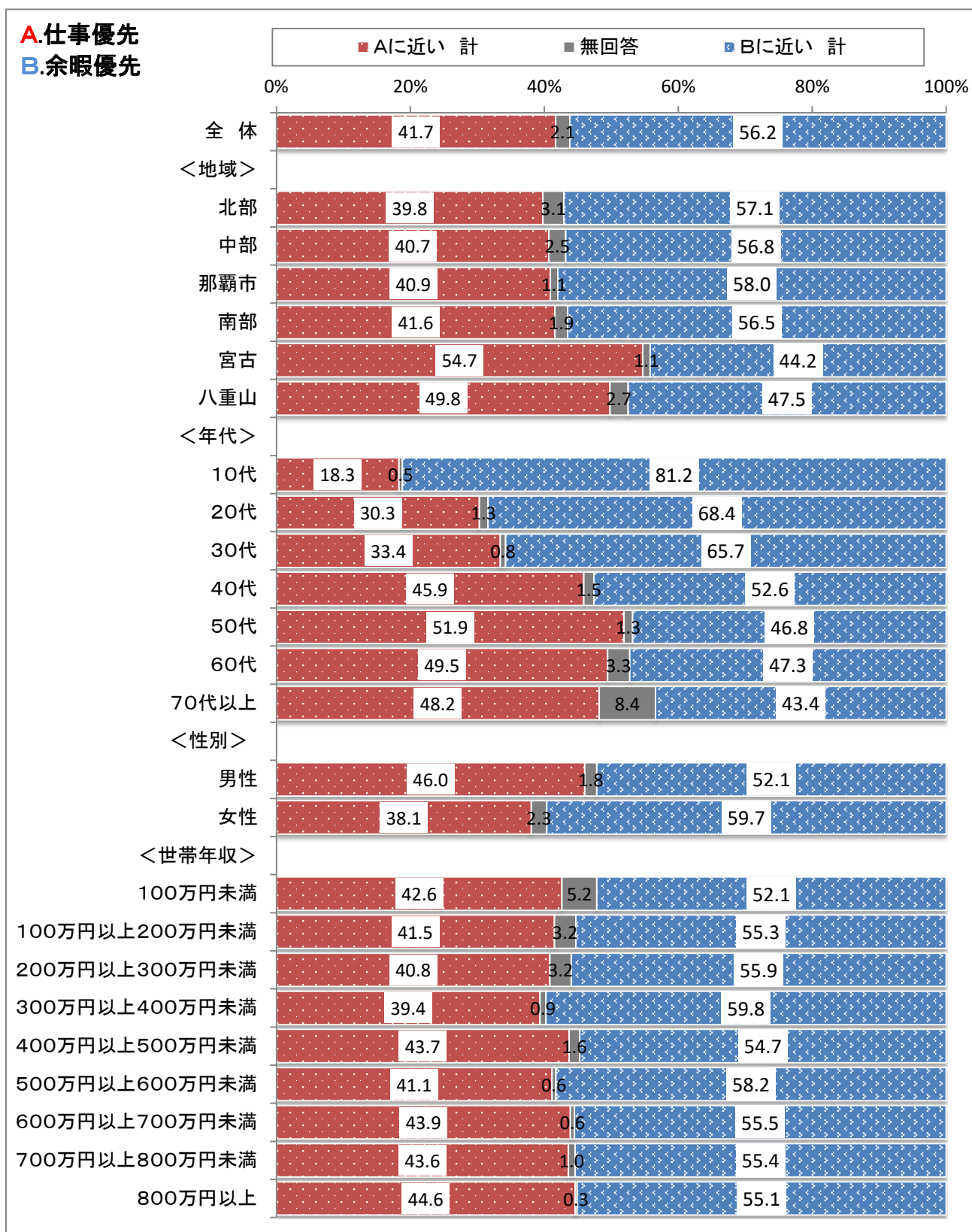
世帯年収別にみると、余暇優先派の割合は、300万円以上400万円未満の所得層が59.8%と最も高い。

図表II-4-2 仕事と余暇に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表II-4-3 仕事と余暇に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(3) 精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観 (問5-2)

精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観について、時系列で見ると、精神的豊かさを選好する割合が一貫して高くなっているが、物質的豊かさは、今回の調査で20.6%と前回の調査をやや下回った。

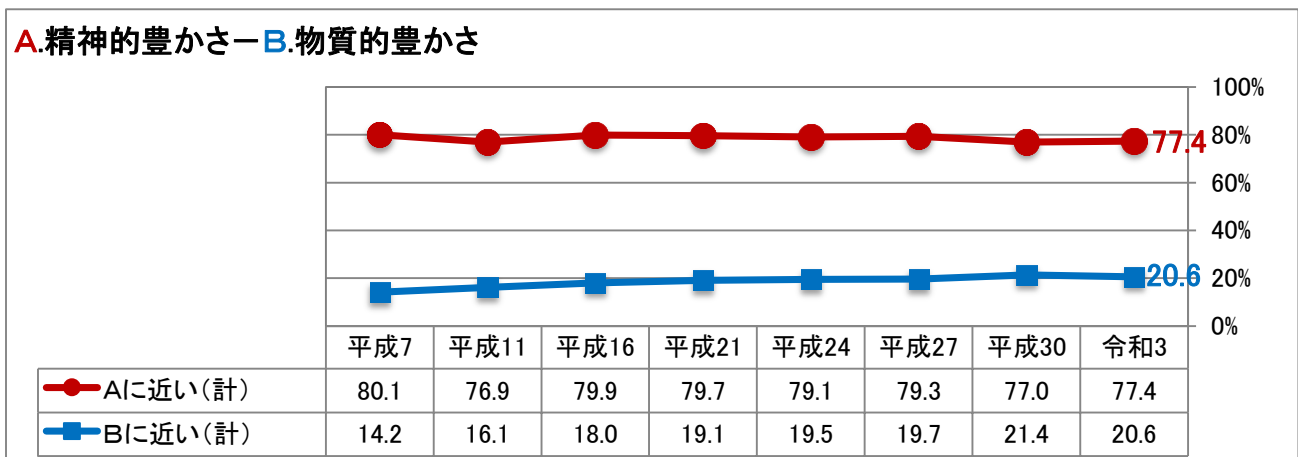
地域別にみると、精神的豊かさに対する価値観を選好する割合は、宮古(82.9%)で最も高く、物質的豊かを選好する割合は、宮古を除く他の地域で2割を占めている。

年代別にみると、物質的豊かさに対する価値観を選好する割合は70代以上(24.4%)が最も高く、精神的豊かさに対する価値観を選好する割合は20代(81.8%)で最も高くなっている。

性別で見ると、男女とも精神的豊かさを選好する割合が高く、物質的豊かさを選考する割合は、男性(24.2%)が女性(17.7%)より高い。

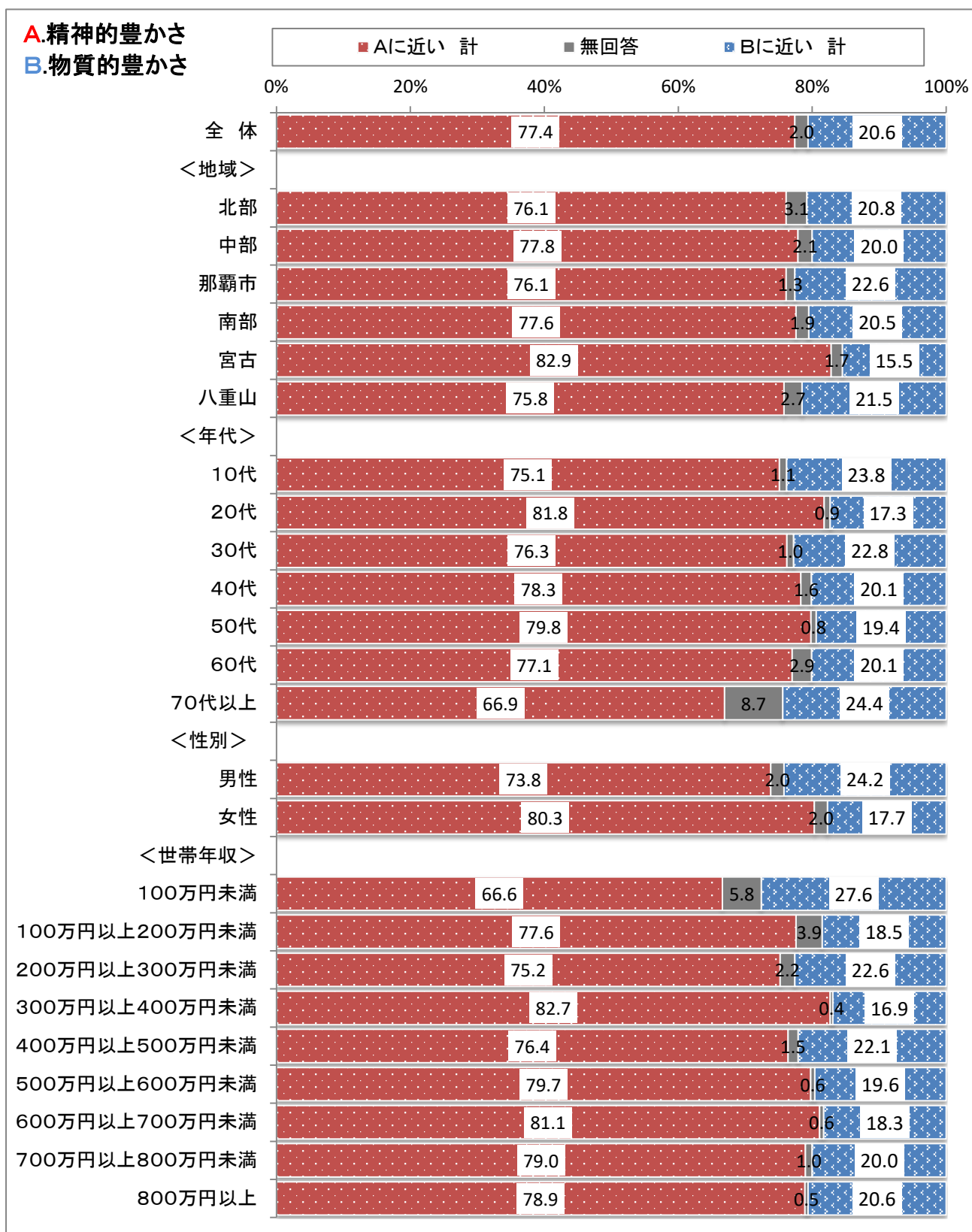
世帯年収別にみると、精神的豊かさを選好する割合は、300万円以上400万円未満(82.7%)で最も高くなっている。

図表 II-4-4 精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-5 精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(4) 女性の家事専念と社会進出に関する価値観 (問5-3)

女性の家事専念と社会進出に関する価値観について、時系列で見ると、女性の社会進出と女性は家事専念の割合の差は平成7年で7.8ポイントであったが、徐々に広がり、令和3年では62.2ポイントとなっている。

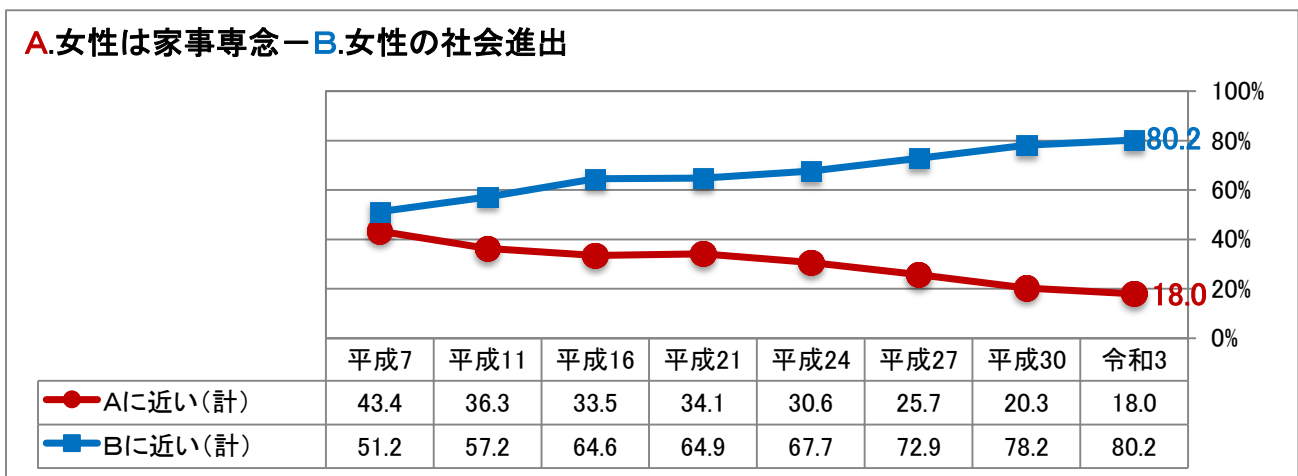
地域別にみると、女性の社会進出派の割合は、八重山(81.7%)、南部(81.6%)、那覇市(80.1%)で8割を超えている。

年代別にみると、女性の社会進出派の割合は、10代(83.9%)、20代(81.0%)、30代・50代(80.8%)、40代(80.0%)の年代で8割を超えている。

性別で見ると、男性(77.9%)、女性(82.2%)で女性の割合が上回っている。

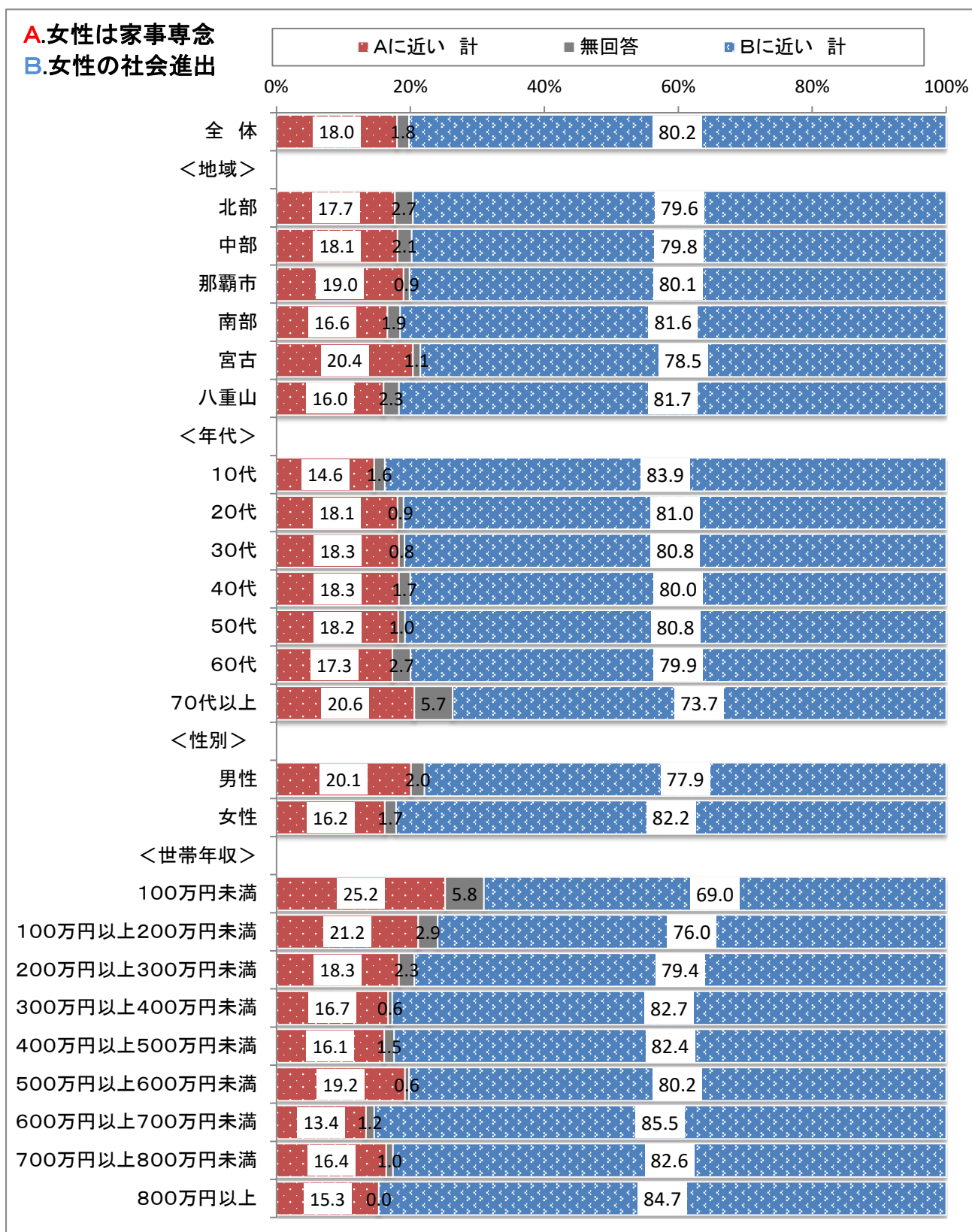
世帯年収別にみると、女性の社会進出の支持は年収600万円以上700万円未満(85.5%)で最も高くなっている。

図表 II-4-6 女性の家事専念と社会進出に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表 II-4-7 女性の家事専念と社会進出に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(5) 男性の家事専念と社会活動に関する価値観 (問5-4)

男性の家事専念と社会進出に関する価値観について、過去3回の調査と比較すると「男性は外で働くべき」の割合が高かったが、令和3年の調査で初めて「男性の家事専念も可」(54.7%)の割合が「男性は外で働くべき」(43.4%)の割合を上回った。

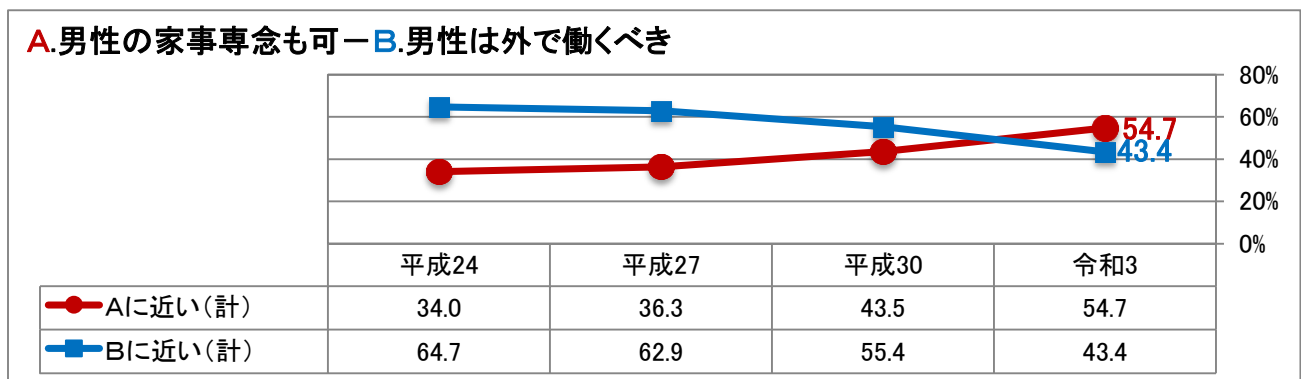
地域別にみると、「男性の家事専念も可」について那覇市(58.7%)が最も高くなっている。

年代別にみると、10代~30代の若年層では、「男性の家事専念も可」については6割を超えている。一方、年代が上がるにつれて、男性は外で働くべき割合が高くなっている。

性別でみると、「男性の家事専念も可」の割合は女性が男性を上回っている。

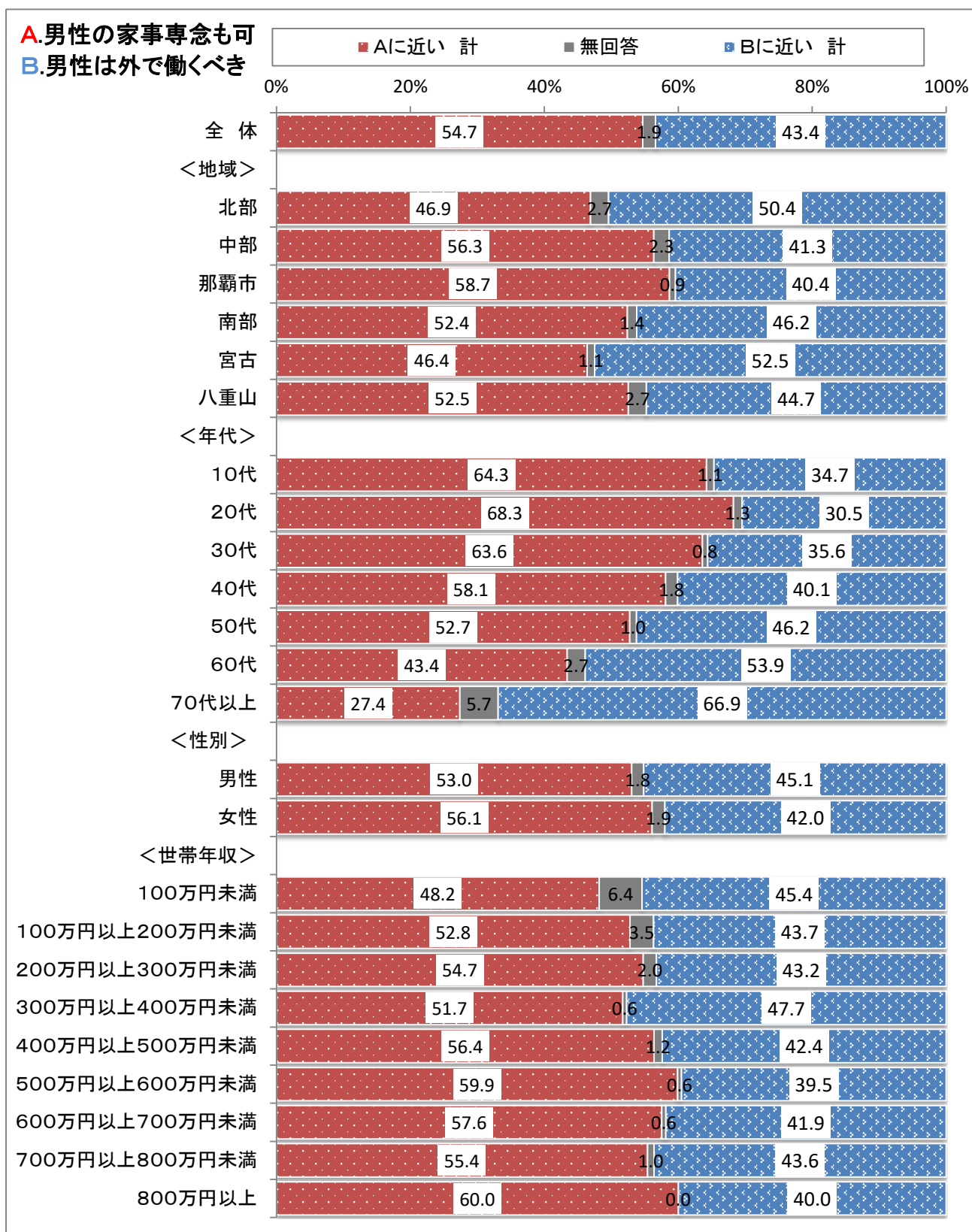
世帯年収別にみると、男性は外で働くべき派の割合は300万円以上400万円未満(47.7%)で最も高くなっているが、年収500万円以上600万円未満の世帯年収では最も低く、4割を下回っている。

図表II-4-8 男性の家事専念と社会活動に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-9 男性の家事専念と社会活動に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(6) 能力・実績重視と年功序列に関する価値観 (問5-5)

能力・実績重視と年功序列に関する価値観について、時系列で見ると、多少の変動はあるものの能力・実績重視が上昇している。

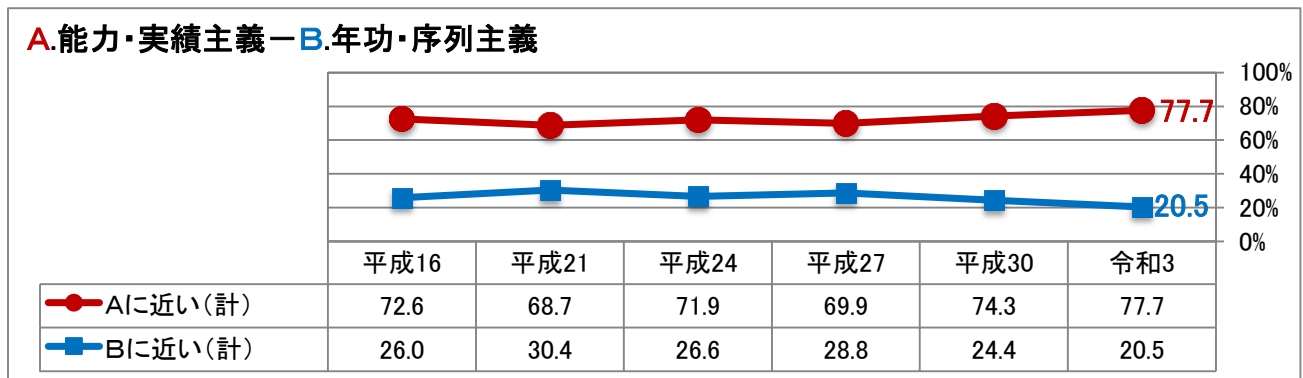
地域別にみると、年功・序列主義派は北部(23.9%)で最も高くなっている。

年代別にみると、20代～40代では能力・実績主義派が8割強で他の年代よりも高くなっている。

性別で見ると、能力・実績主義派の割合が、男性(77.2%)よりも女性(78.0%)でやや高い。

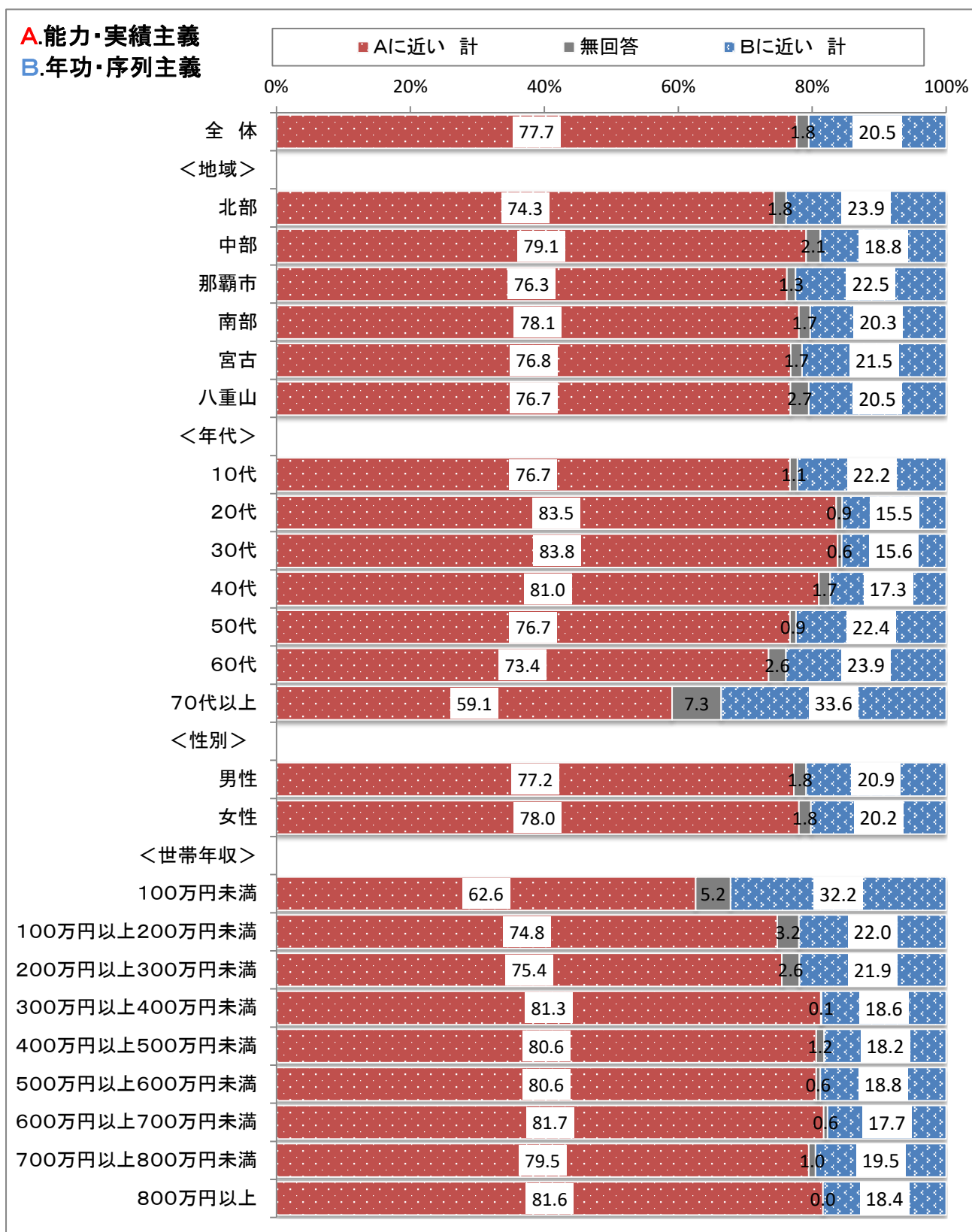
世帯年収別にみると、能力・実績主義派は、年収100万円未満を除く世帯年収で7割を超えている。

図表Ⅱ-4-10 能力・実績重視と年功序列に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-11 能力・実績重視と年功序列に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(7) 都心での生活と郊外での生活に関する価値観 (問5-6)

都市での生活と郊外での生活に関する価値観について、時系列で見ると、過去5回の調査と比べて都市での生活派の割合は徐々に上昇し、郊外での生活派の割合は低下していたが、令和3年の調査では郊外での生活派の割合が微増した。

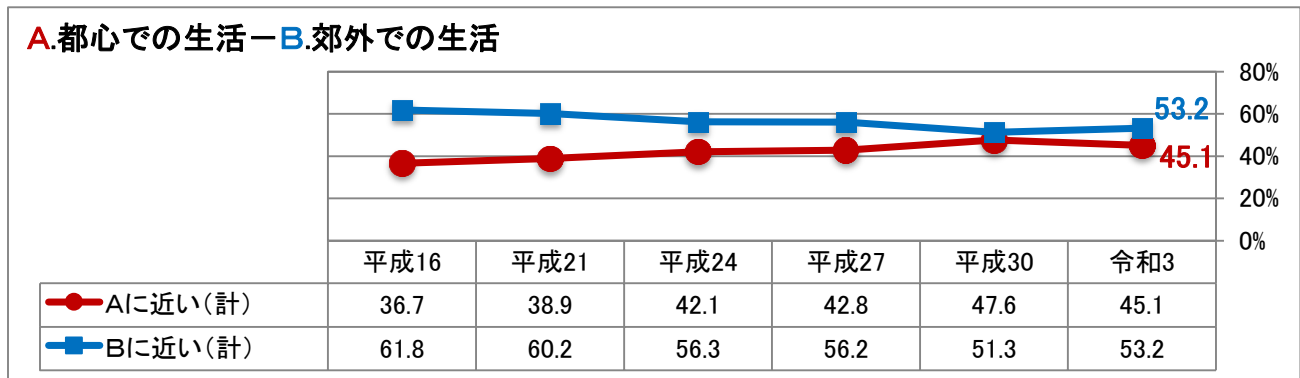
地域別にみると、都市での生活志向派の割合は、那覇市(62.9%)で最も高く、郊外志向派は、北部(68.1%)で最も高くなっている。

年代別にみると、都市での生活志向派の割合は、10代(58.7%)で最も高く、20代(53.2%)、30代(51.7%)で5割を超える。

性別で見ると、都市での生活志向派の割合は女性(49.0%)が男性(40.3%)を上回る。

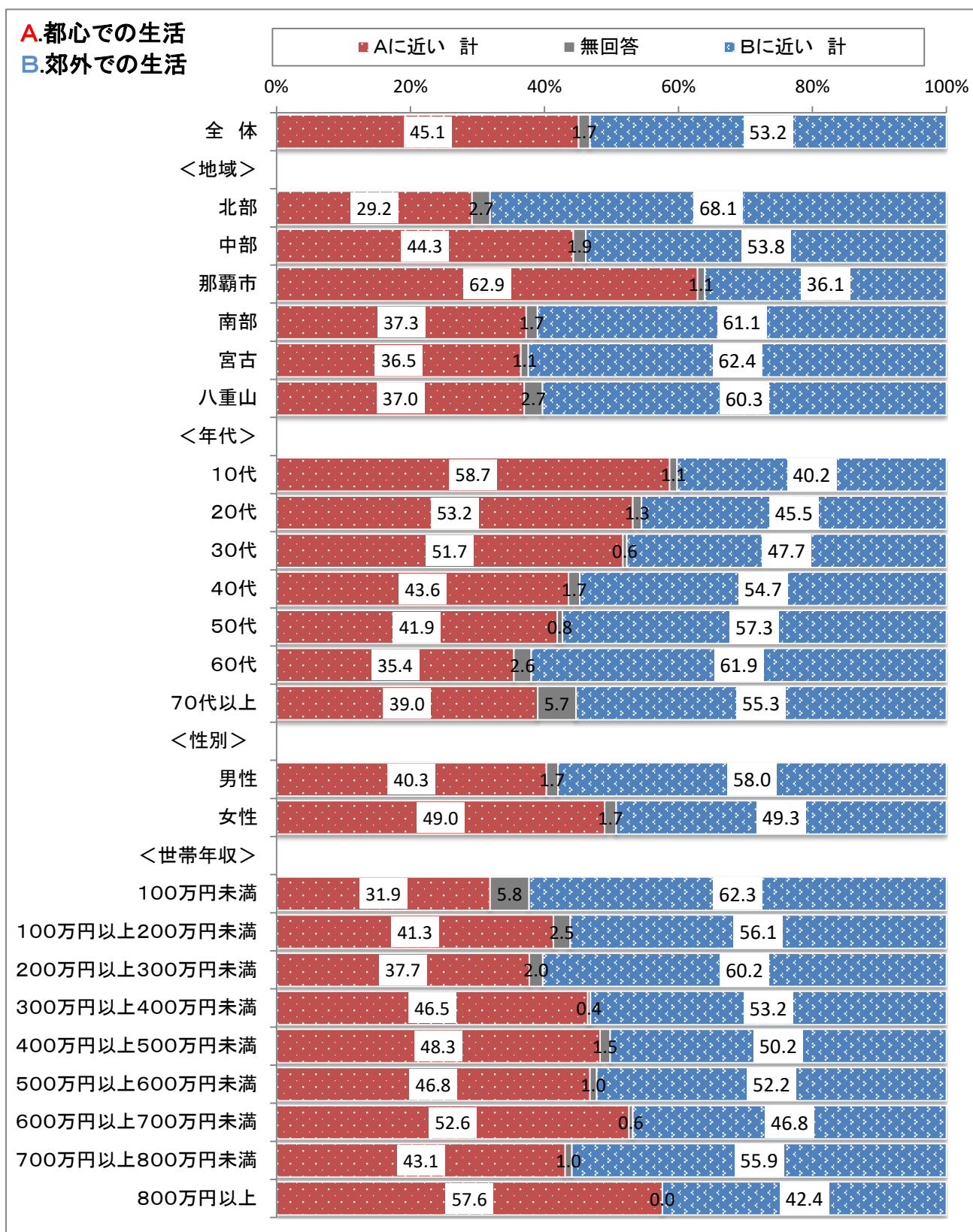
世帯年収別にみると、都市での生活志向派の割合は、世帯年収100万円未満(31.9%)が最も低い。

図表II-4-12 都心での生活と郊外での生活に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-13 都心での生活と郊外での生活に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(8) 改革と保守に関する価値観 (問5-7)

改革と保守に関する価値観について、時系列でみると改革派(68.8%)が平成30年度調査と比較して6.5ポイント上昇している。

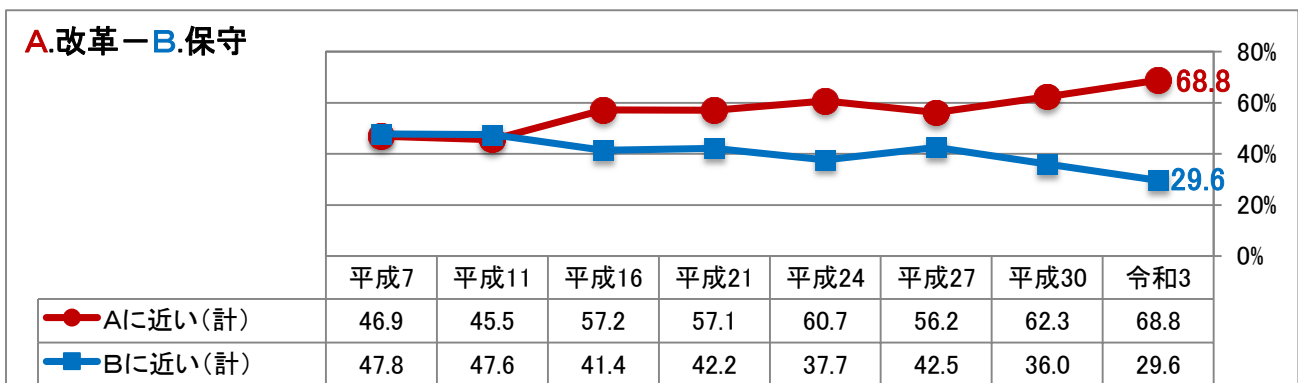
地域別にみると、改革派の割合は北部(59.7%)を除く地域で6割を超えている。

年代別にみると、改革の割合は20代が8割を超えている。70代以上では保守派(55.6%)、改革派(38.2%)と他年代と比べて保守派の割合が高くなっている。

性別でみると、男女による違いはあまりない。

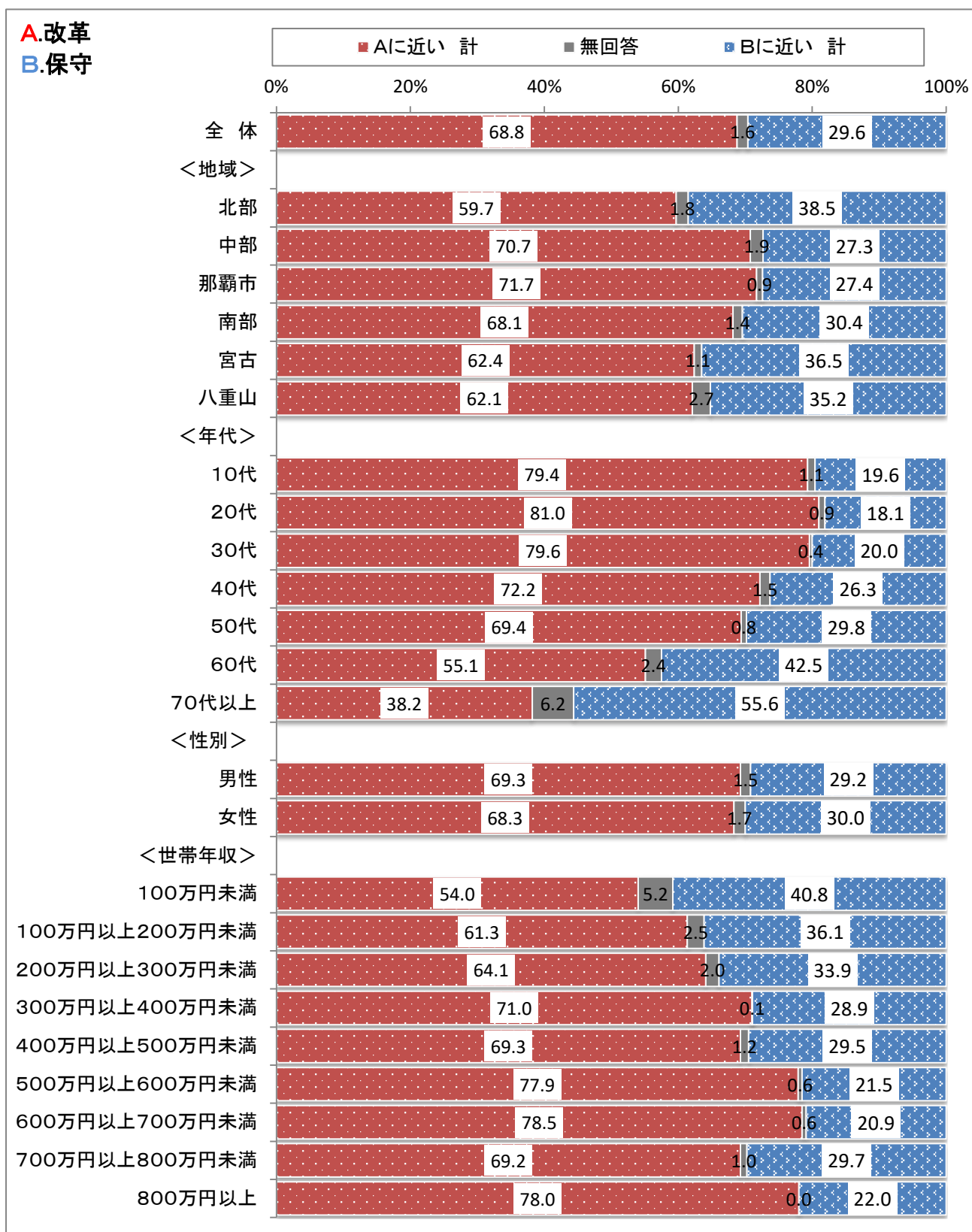
世帯年収別にみると、改革派は、年収600万円以上700万円未満(78.5%)で最も高く、ついで年収800万円以上(78.0%)、年収500万円以上600万円未満(77.9%)、年収300万円以上400万円未満(71.0%)と7割を超えている。

図表Ⅱ-4-14 改革と保守に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表II-4-15 改革と保守に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



(9) 地方分権と中央集権に関する価値観 (問5-8)

地方分権と中央集権に関する価値観について、時系列で見ると、ポイントの増減は小さいが、地方分権の割合が9割弱となっている。

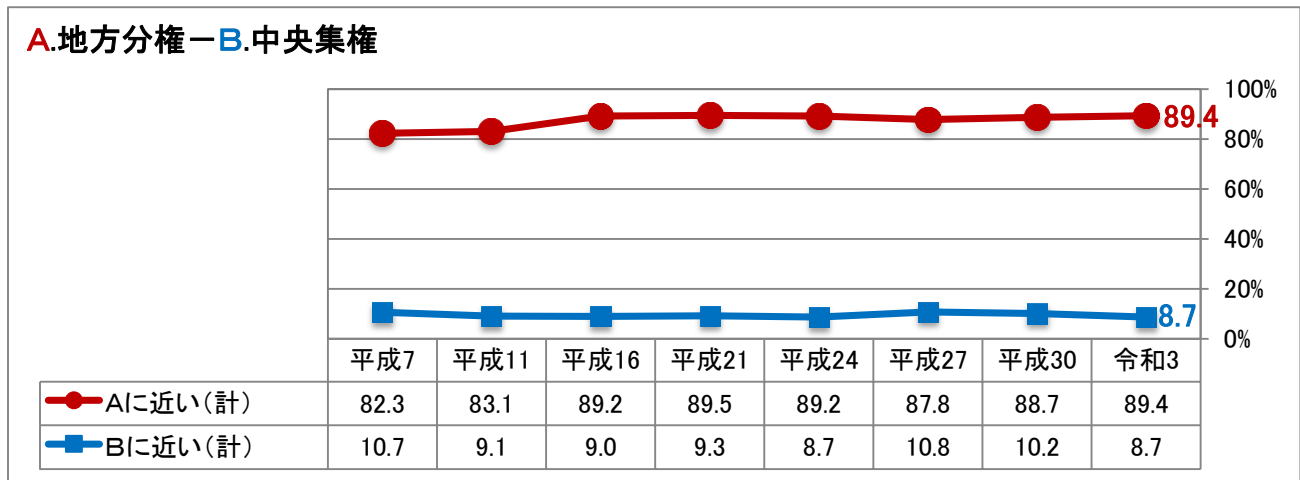
地域別にみると、地方分権の割合は宮古(91.2%)で最も高くなっている。

年代別にみると、地方分権の割合は40代・60代で9割を超えている。

性別で見ると、地方分権の割合は男性(87.0%)より女性(91.4%)で高い。

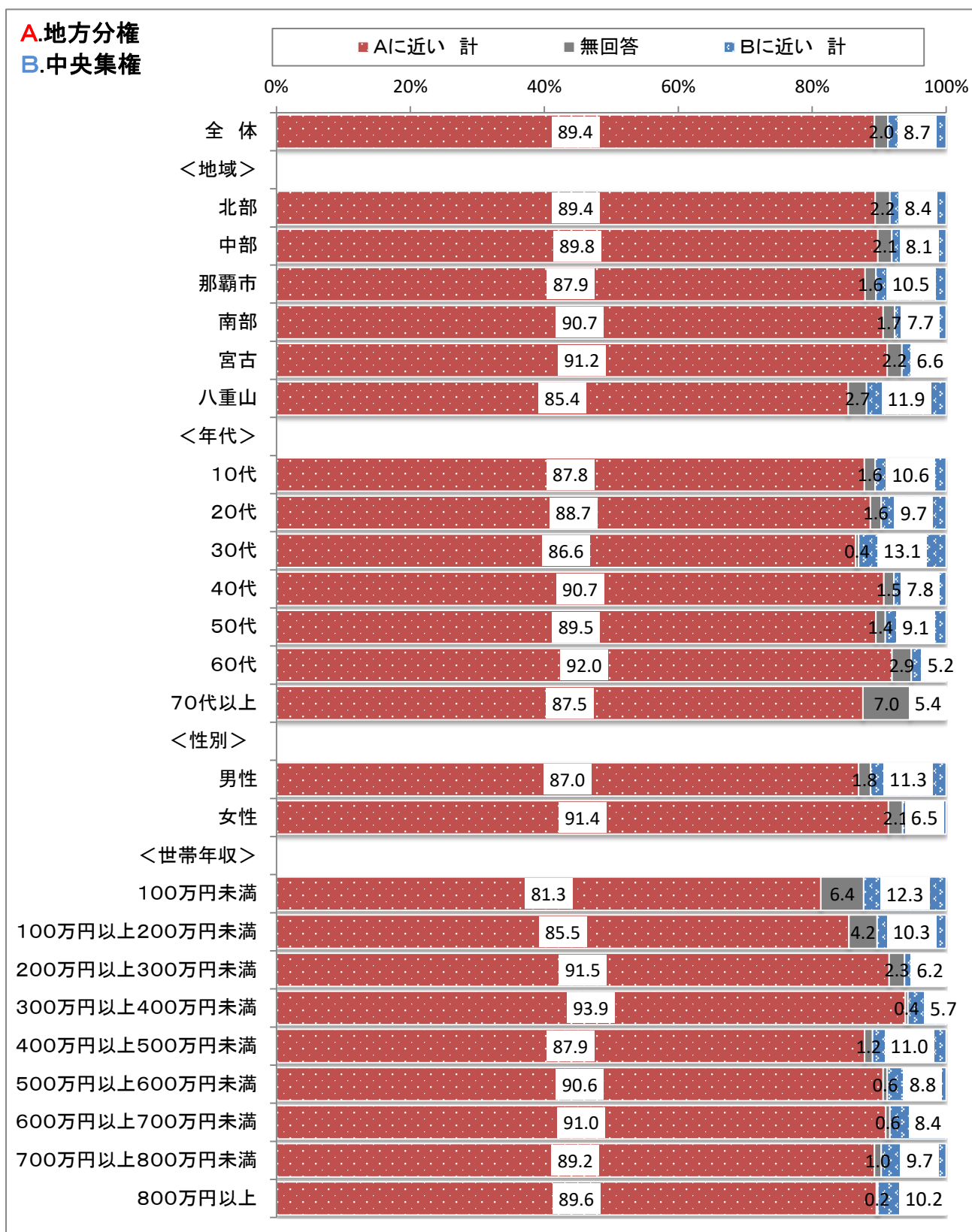
世帯年収別にみると、地方分権の割合は年収200万円以上300万円未満と300万円以上400万円未満、500万円以上600万円未満、600万円以上700万円未満の所得層で9割を超えている。また、中央集権の割合は100万円未満(12.3%)で他の所得層よりもやや高くなっている。

図表II-4-16 地方分権と中央集権に関する価値観 (時系列比較)



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表 II - 4 - 17 地方分権と中央集権に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



2. 生活状態（くらしむき）の意識・変化・見通し（問8）

（1）生活状態の意識

現在の生活状態（くらしむき）については、「中の中」（42.0％）の割合が最も高く、次いで「中の下」（23.8％）、
「中の上」（16.0％）となっている。

時系列にみると、「中の上」での割合は昭和59年の調査（7.5％）で最も低く、その後は上昇しており、平成24年
が一旦減少しているが、その後上昇し、令和3年の調査では16.0％と高くなっている。

全国（内閣府／国民生活に関する世論調査[令和元年6月調査]）と比較すると、沖縄県の「中の中」の割合は
15.7ポイント低くなっている。

地域別にみると、「中の上」の割合では、那覇市（18.5％）が最も高く、次いで八重山（16.0％）となっている。宮
古では「わからない」（10.5％）がほかの地域に比べて高い。

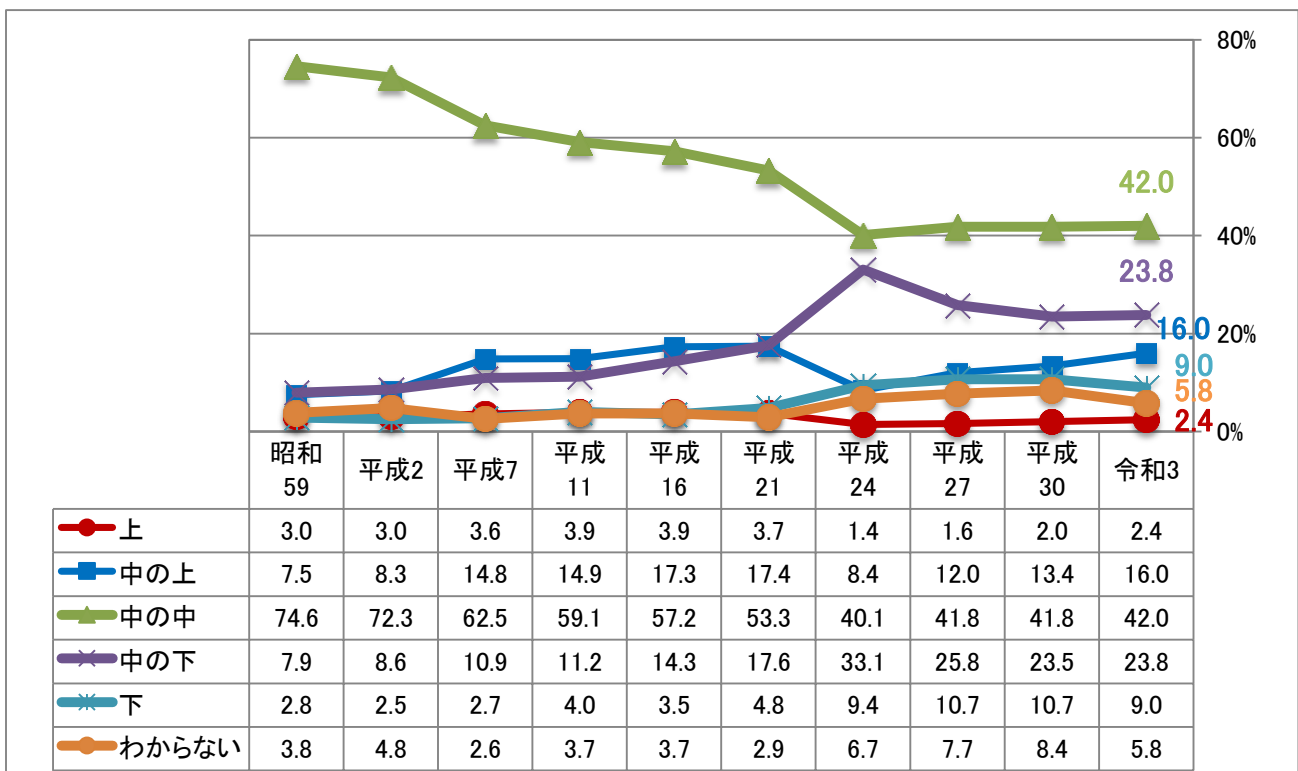
年代別にみると、「中の中」の割合は、40代以上の年代で4割を超えている。「中の上」は70代以上（8.9％）
が最も割合が低くなっている。

性別でみると、「中の中」の割合は男性（40.3％）より女性（43.6％）でやや高くなっている。

世帯年収別にみると、「中の上」の割合は年収が高いほど上昇し、700万円以上の世帯年収で3割を超える。
「中の下」と「下」の割合は、年収が低いほど高くなる。

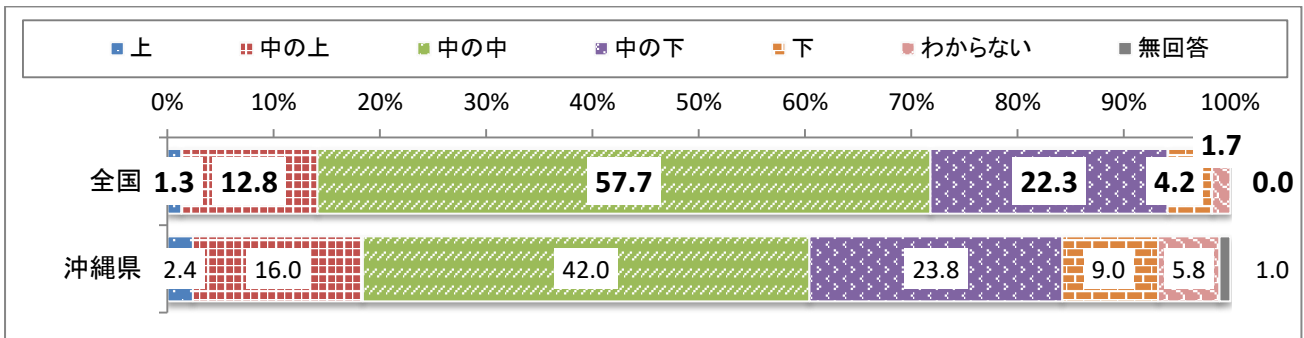
従業上の地位別にみると、「中の中」の割合は雇用者－正規の職員・従業員、家族従業者（同率47.6％）が最
も高く、次いで、自営業者（41.7％）で4割を超える。また、雇用者－非正規の職員・従業員では「中の下」「下」を
合わせた割合が、4割を超えており地位別で最も高くなっている。

図表Ⅱ-4-18 生活状態の意識（時系列比較）



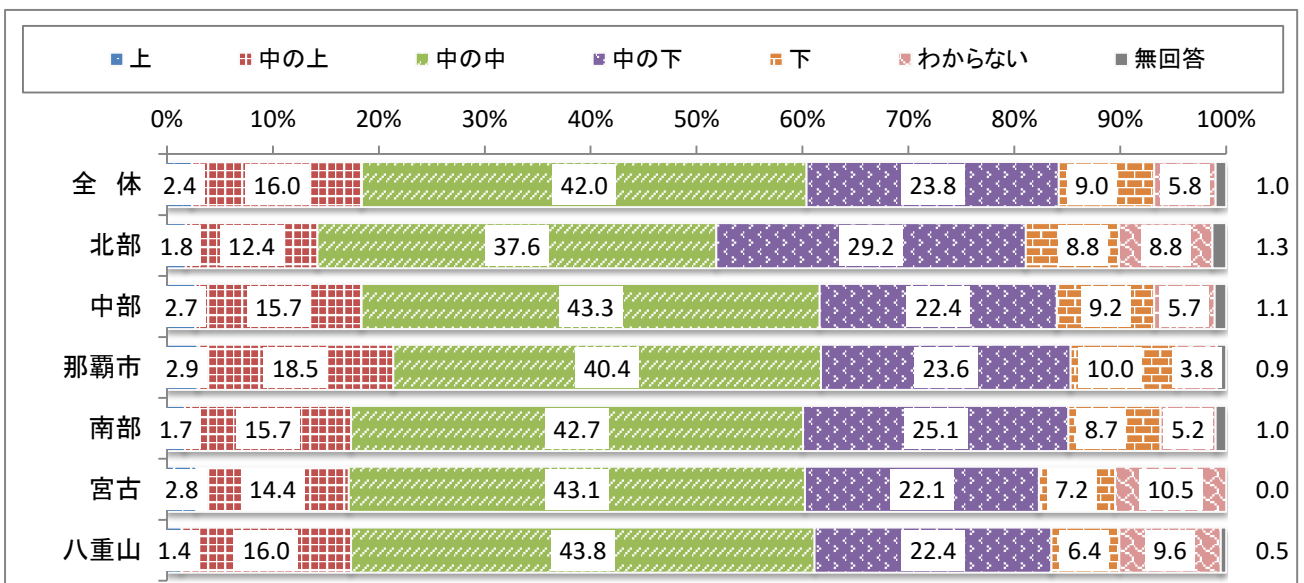
II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-19 生活状態の意識（全国比較）

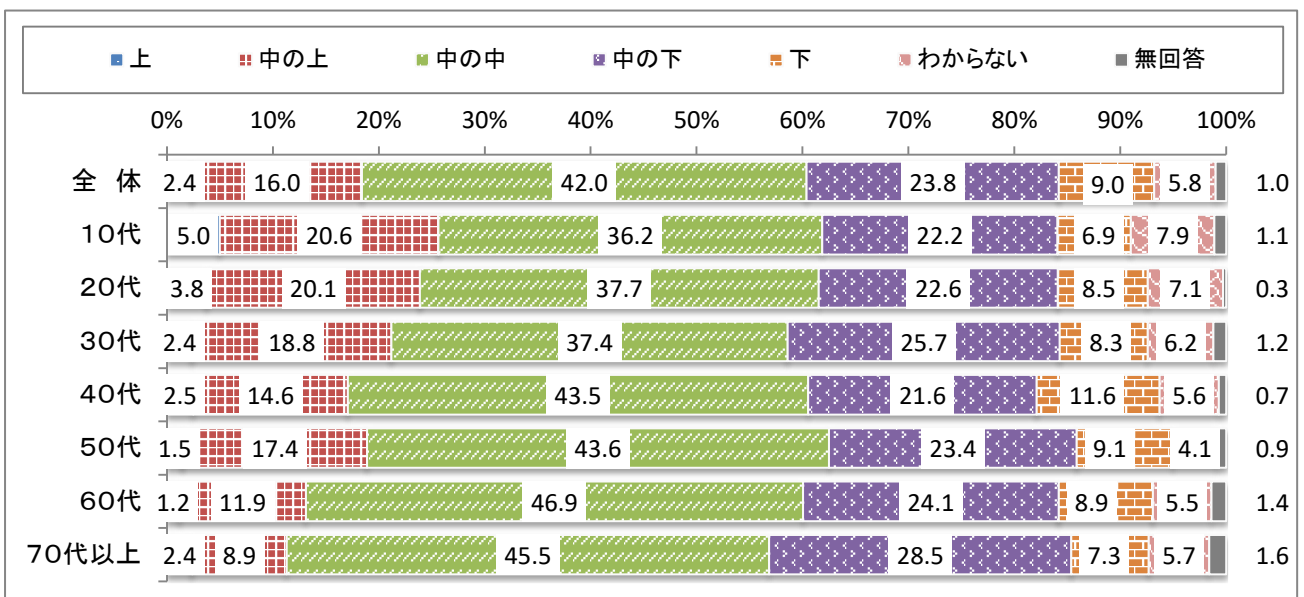


※全国の調査結果は内閣府「国民生活に関する世論調査(令和元年6月調査)」

図表Ⅱ-4-20 生活状態の意識（地域別）

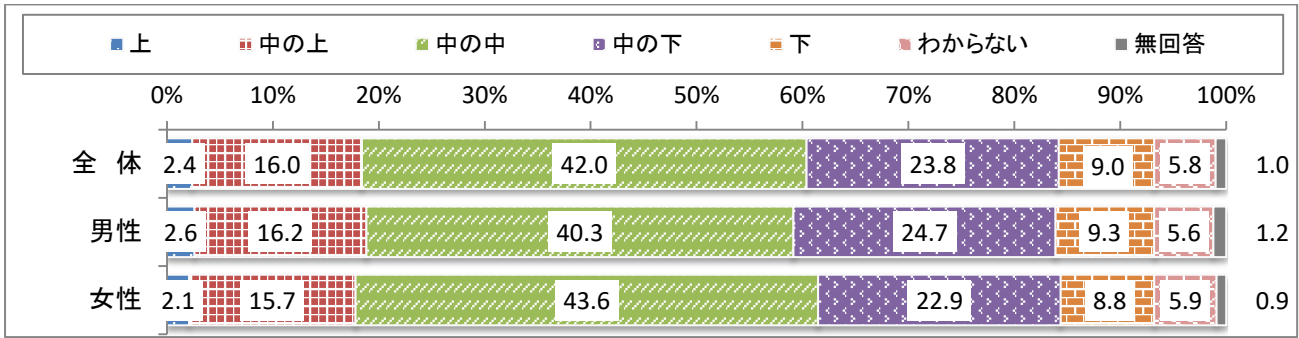


図表Ⅱ-4-21 生活状態の意識（年代別）

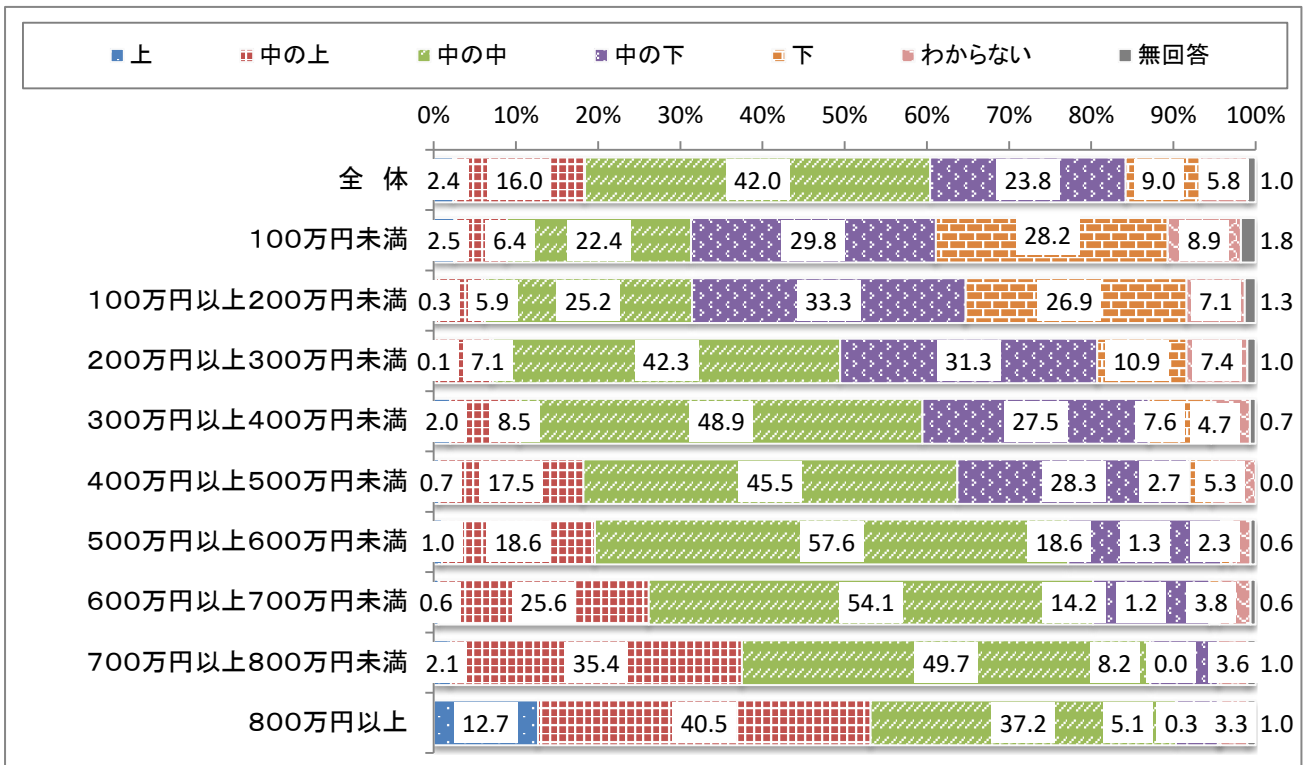


II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

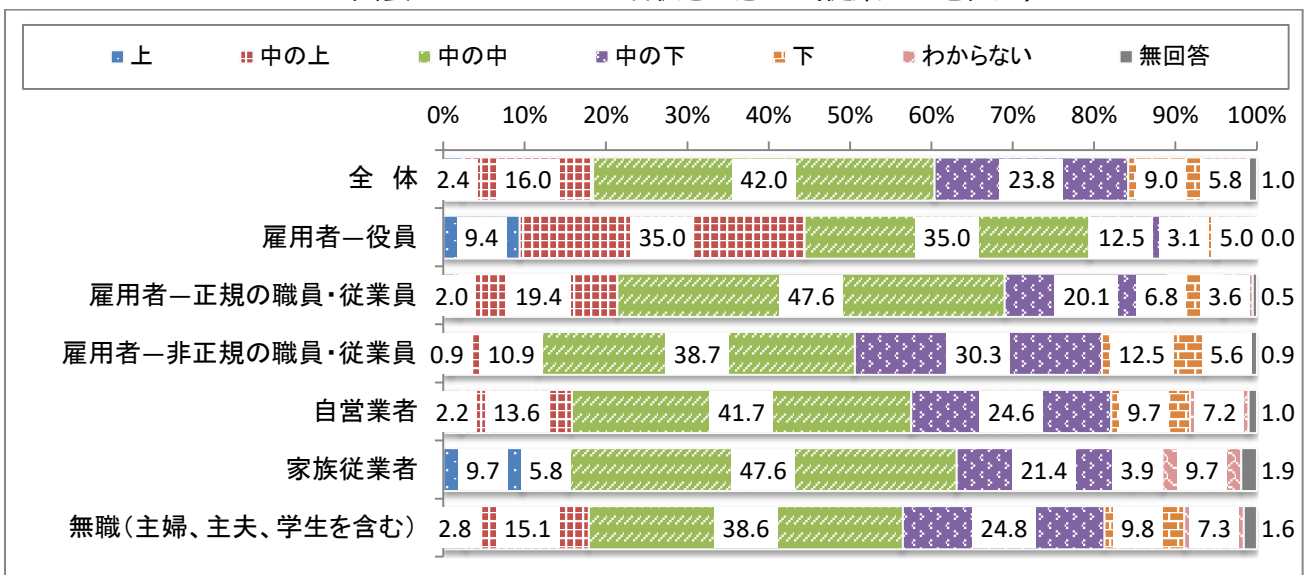
図表Ⅱ-4-22 生活状態の意識（性別）



図表Ⅱ-4-23 生活状態の意識（世帯年収別）



図表Ⅱ-4-24 生活状態の意識（従業上の地位別）



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

(2) 生活状態の変化

4、5年前に比べた現在の生活状態の変化について、「変わらない」(45.8%)の割合が最も高く、次いで「良くなった」(23.8%)、「悪くなった」(16.7%)となっている。

時系列にみると、「良くなった」の割合は平成21年(13.0%)が底でその後上昇し続け、令和3年の割合が23.8%となる。

地域別にみると、中部・宮古では「極めて良くなった」「良くなった」と判断する人の割合が3割と他の地域に比べて高い。

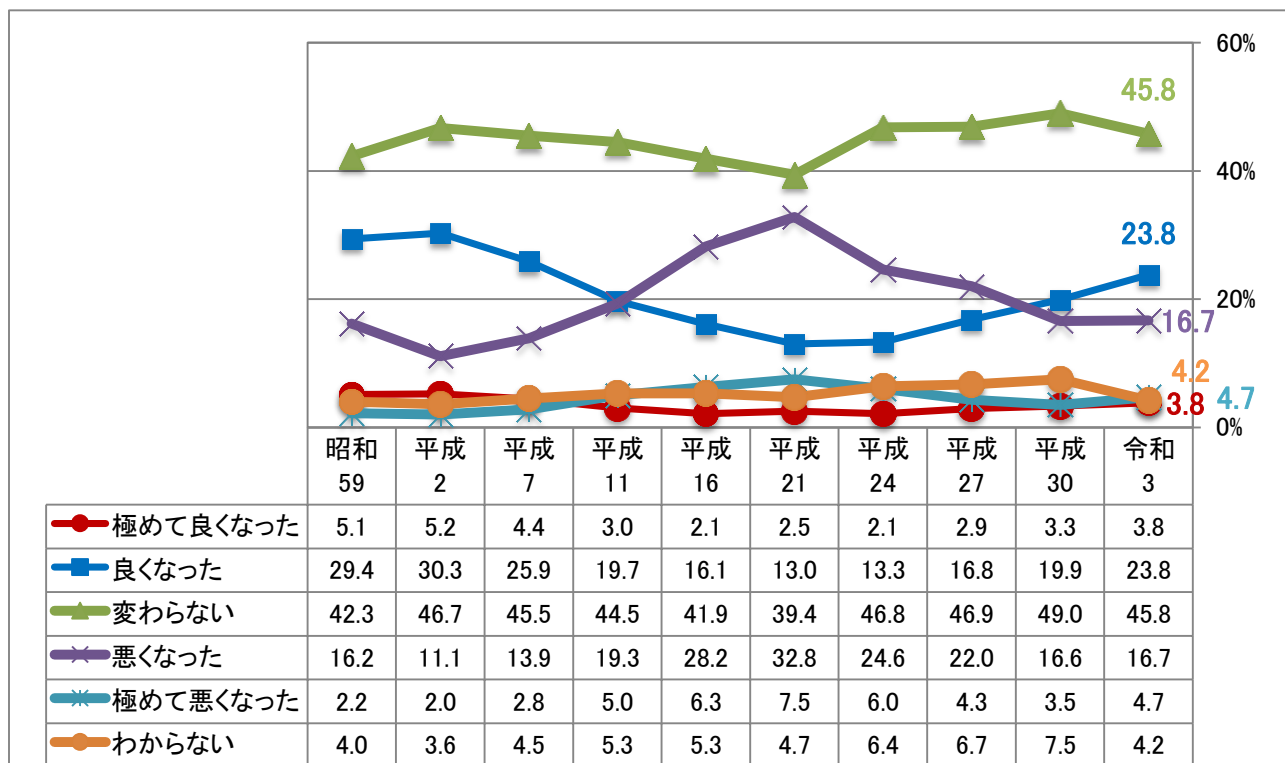
年代別にみると、60代以上の割合で「変わらない」は5割を超えているが、30代以上の年代が高まるとともに「良くなった」の割合が低下し、「悪くなった」の割合が高まっている。

性別でみると、男女とも「変わらない」の割合が最も高いが、女性(44.0%)よりも男性(48.0%)で高い。

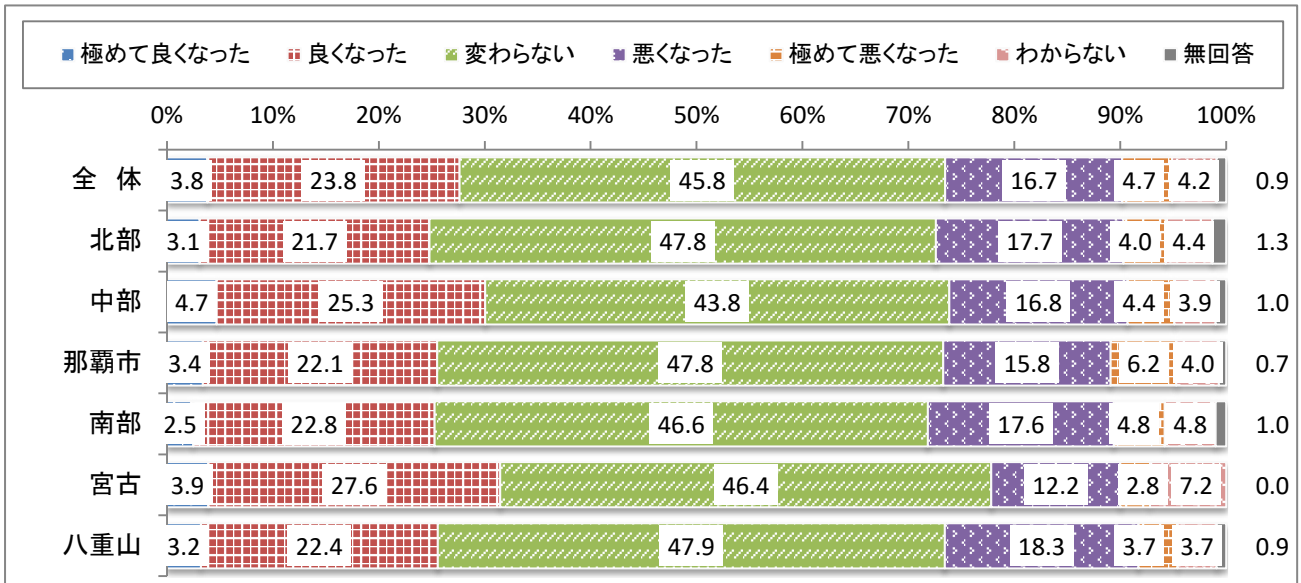
世帯年収別にみると、「悪くなった」の割合は、100万円未満では4割を超えて特に高くなっている。

従業上の地位別にみると、「良くなった」の割合は、雇用者一役員(44.4%)で最も高く、次いで自営業者(31.0%)となっている。

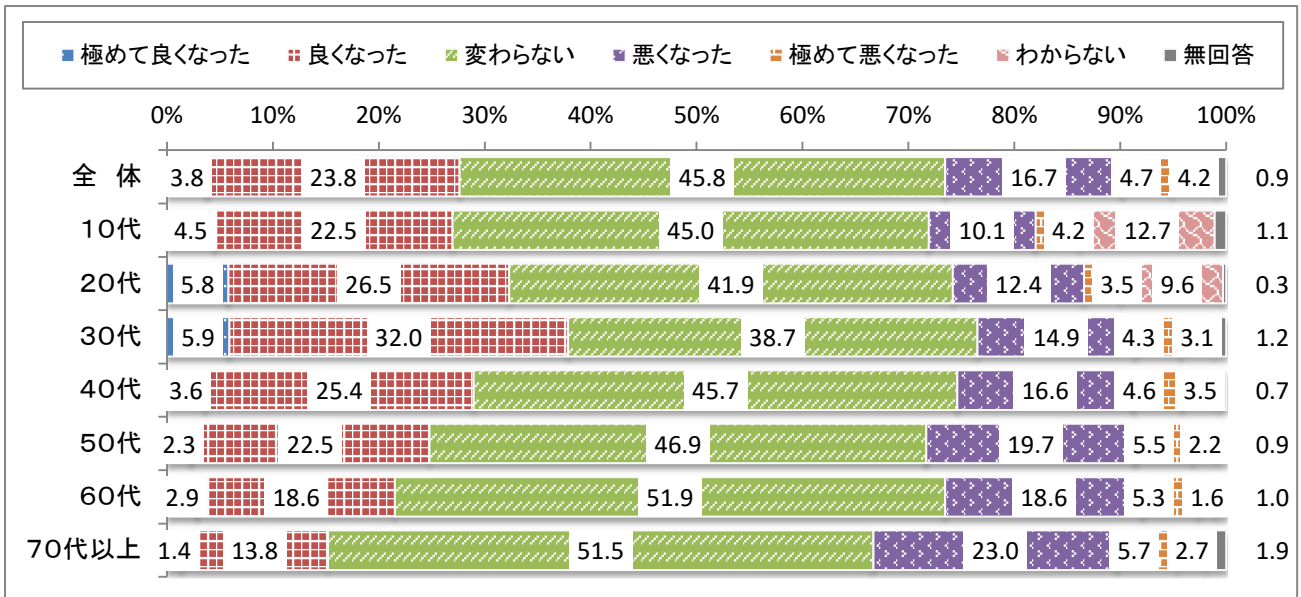
図表Ⅱ-4-25 生活状態の意識 (時系列比較)



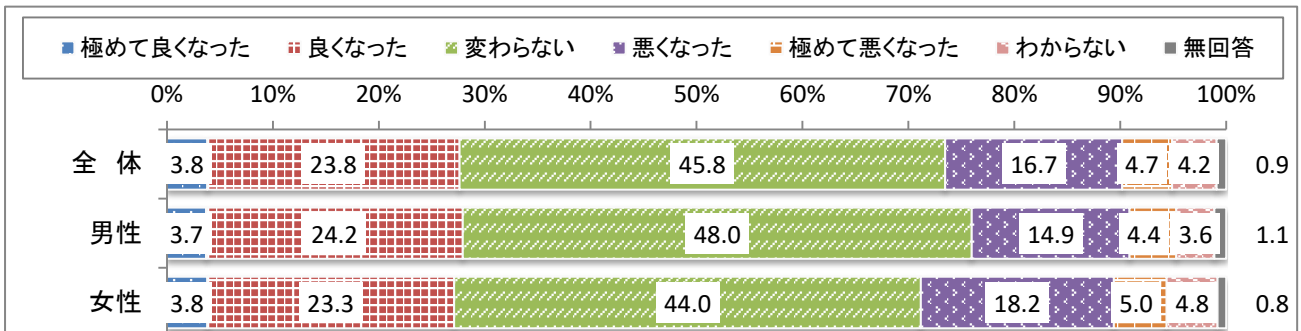
図表Ⅱ-4-26 生活状態の意識（地域別）



図表Ⅱ-4-27 生活状態の意識（年代別）

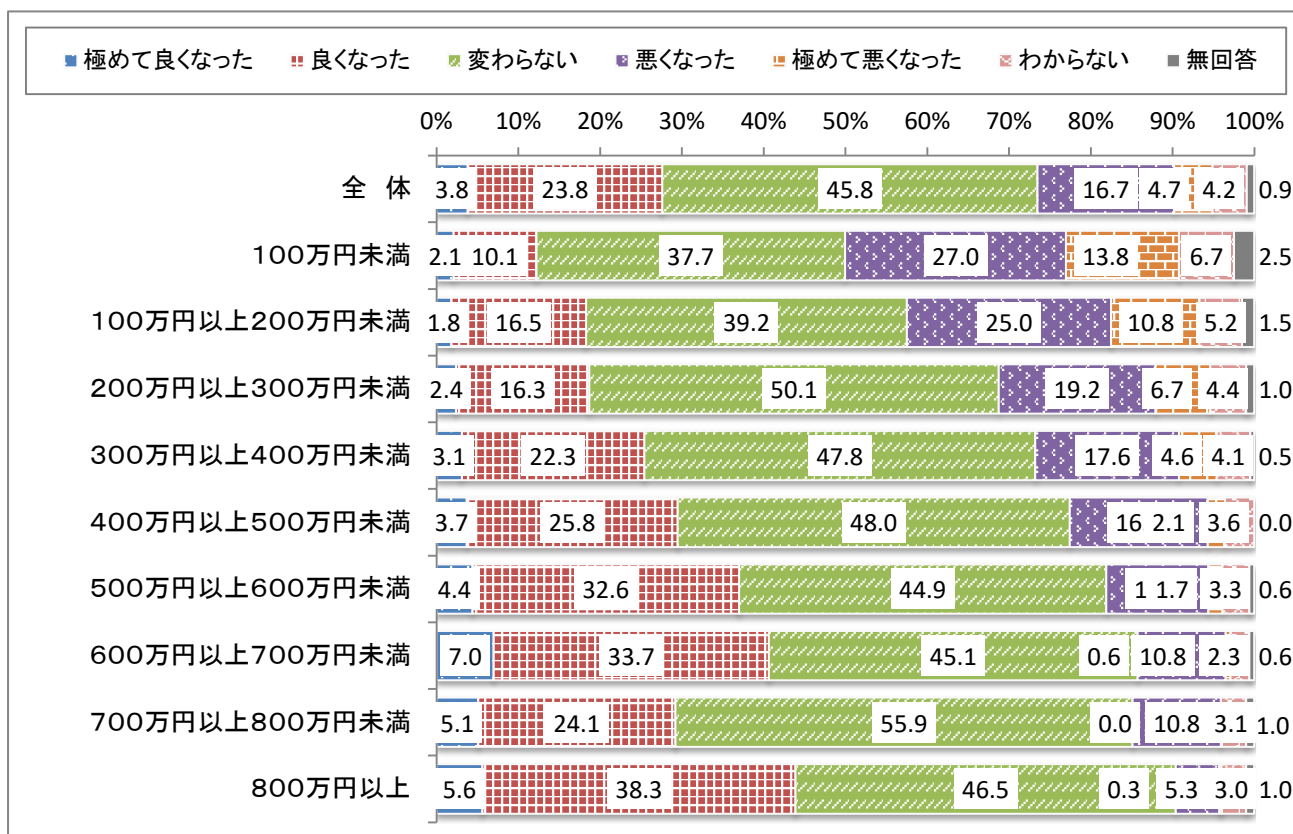


図表Ⅱ-4-28 生活状態の意識（性別）

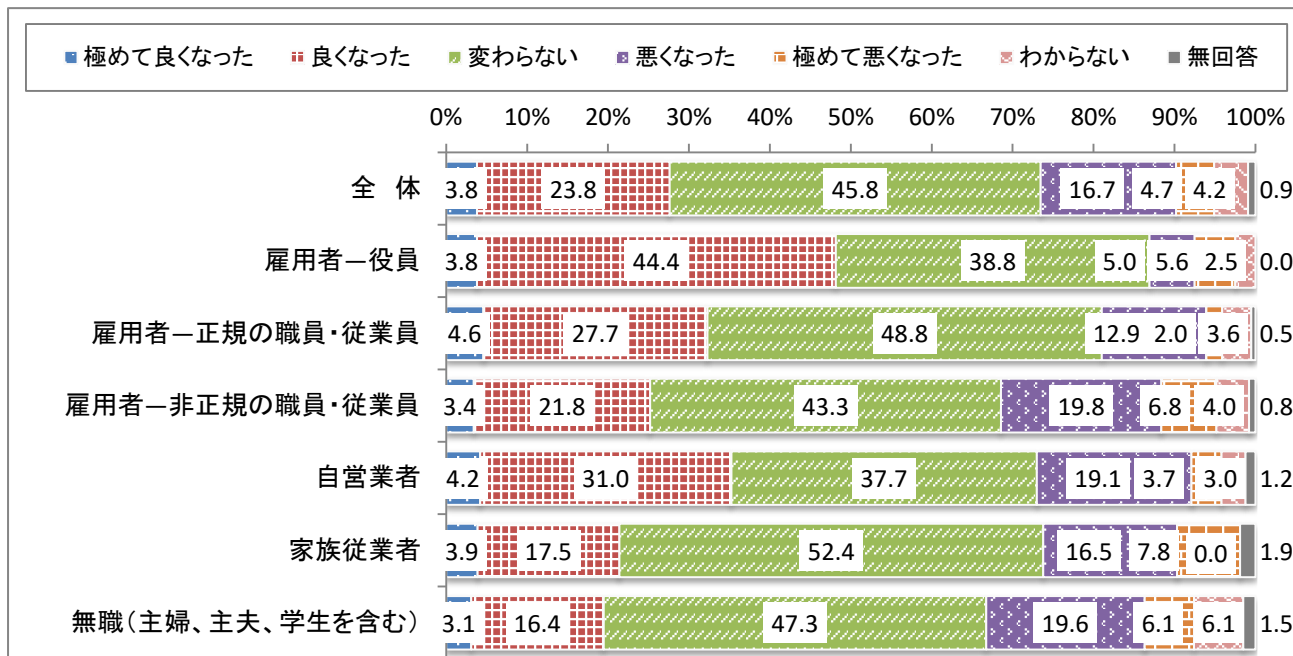


II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-29 生活状態の意識（世帯年収別）



図表Ⅱ-4-30 生活状態の意識（従業上の地位別）



(3) 生活状態の見通し

今後の生活状態の見通しについて、「変わらないと思う」(38.4%)の割合が最も高く、次いで「良くなると思う」(21.6%)、「悪くなると思う」(19.2%)となっている。

時系列にみると、「良くなると思う」の割合は平成21年(15.2%)が底でその後上昇し続け、令和3年の割合が21.6%となる。

地域別にみると、「極めて良くなると思う」では那覇市(4.9%)、「良くなると思う」では八重山(26.9%)、「変わらないと思う」では北部(41.6%)で他の地域と比べて高くなっている。

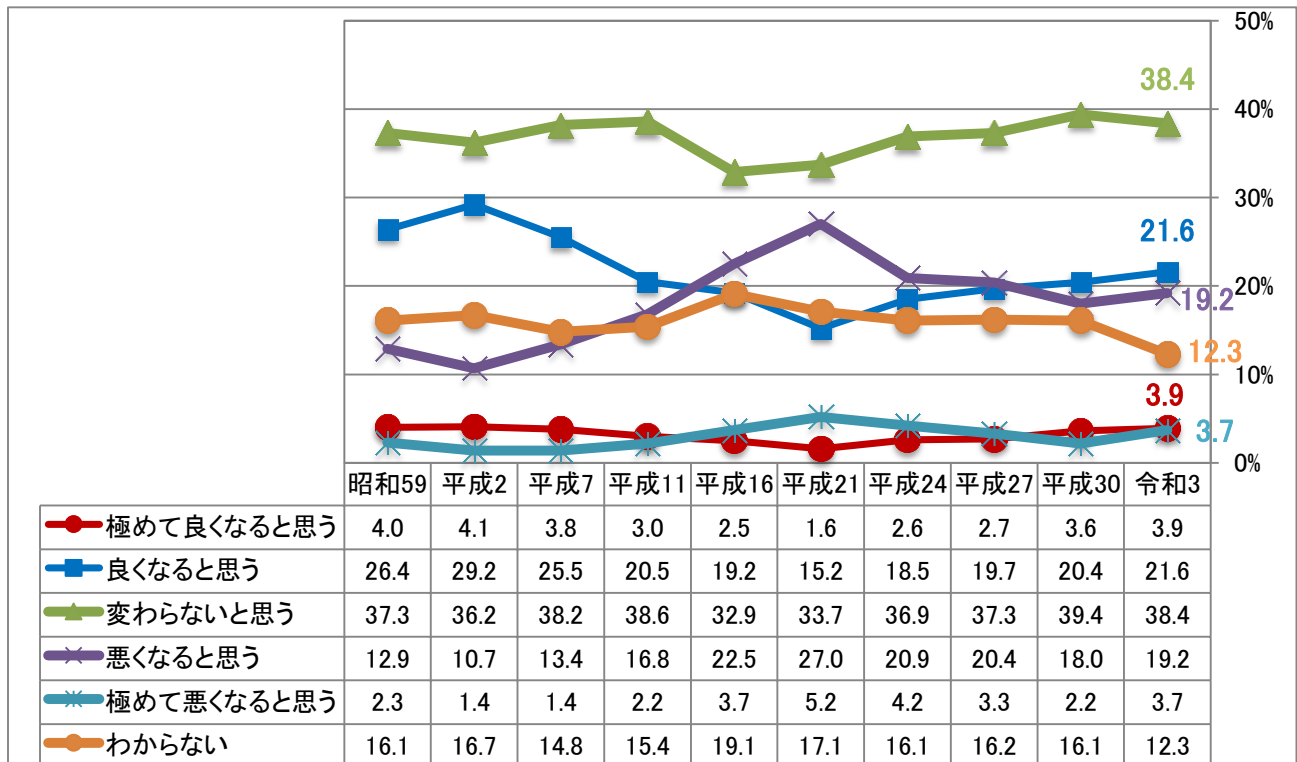
年代別にみると、「極めて良くなると思う」の割合は20代(6.9%)で最も高い。

性別でみると、男女の差はほとんどみられない。

世帯年収別にみると、「悪くなると思う」の割合は100万円未満と100万円以上500万円未満で全体(19.2%)より高い。

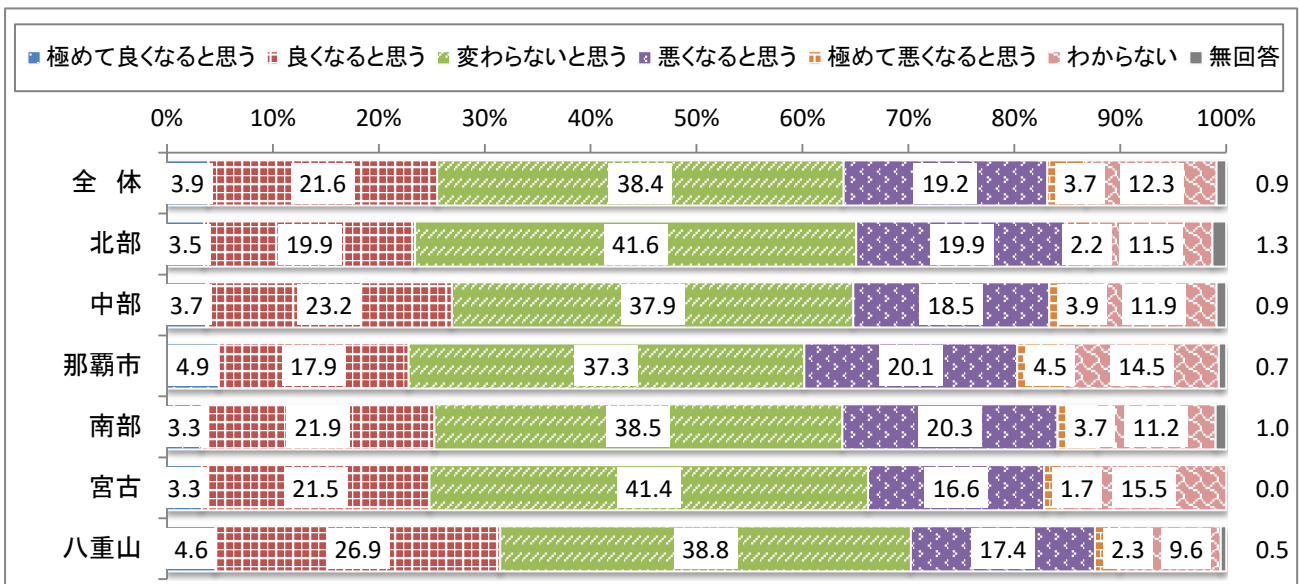
従業上の地位別にみると、「極めて良くなると思う」の割合は自営業者(9.9%)が最も高く、「悪くなると思う」の割合は雇用者－非正規職員・従業員(22.9%)の割合が他の従業地位と比べて高くなっている。

図表Ⅱ-4-31 生活状態の見通し(時系列比較)

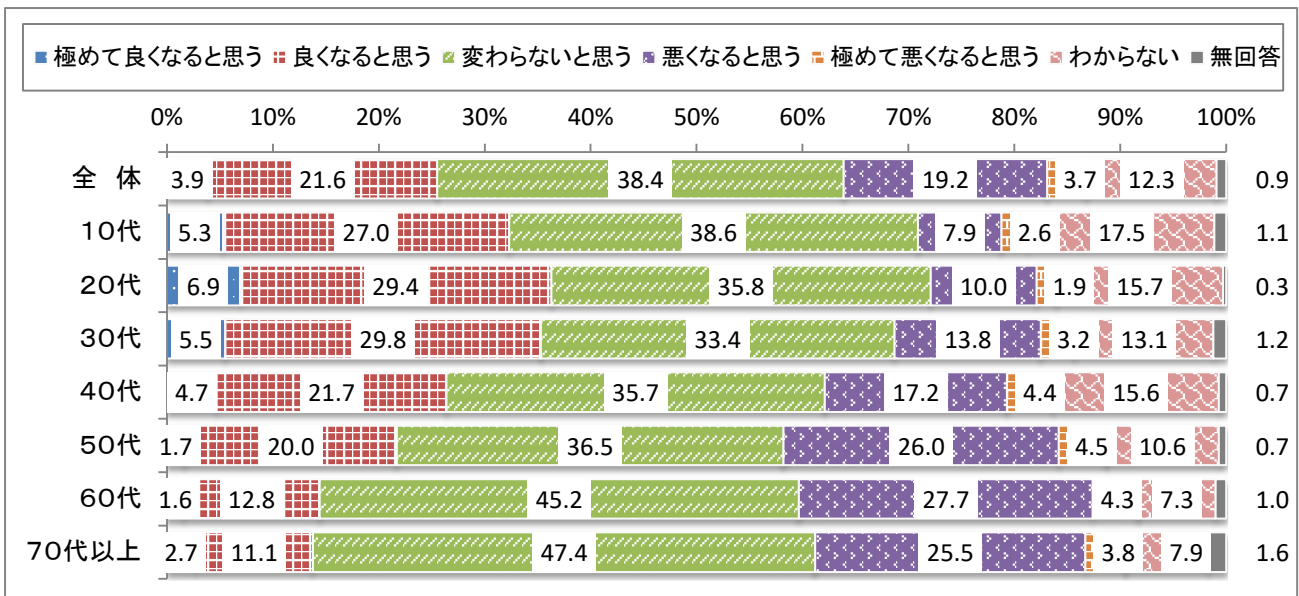


II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

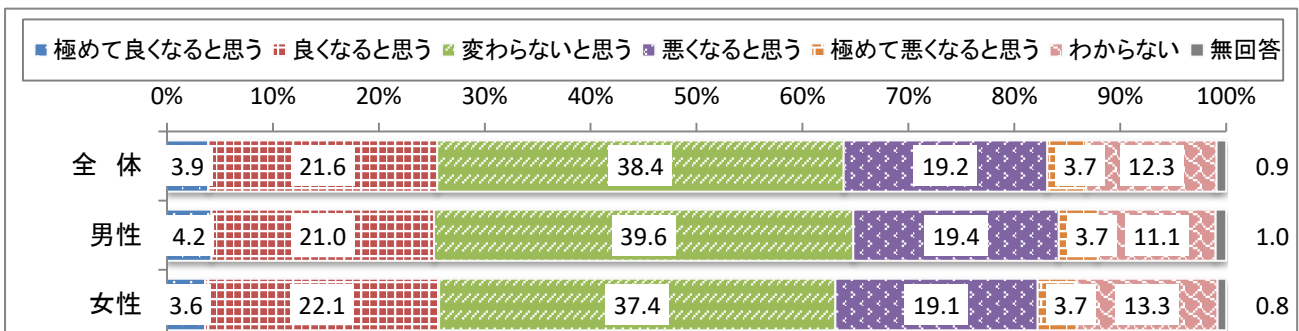
図表Ⅱ-4-32 生活状態の見通し（地域別）



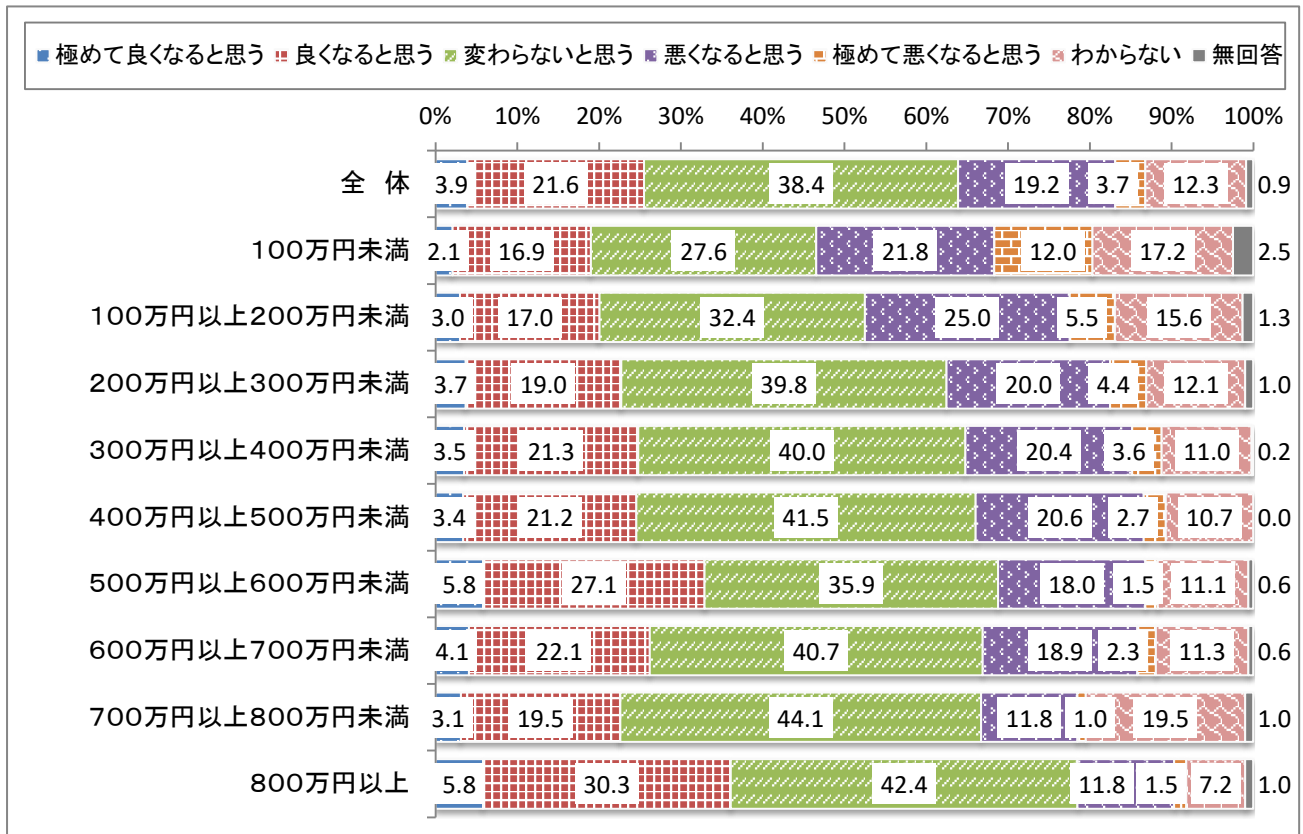
図表Ⅱ-4-33 生活状態の見通し（年代別）



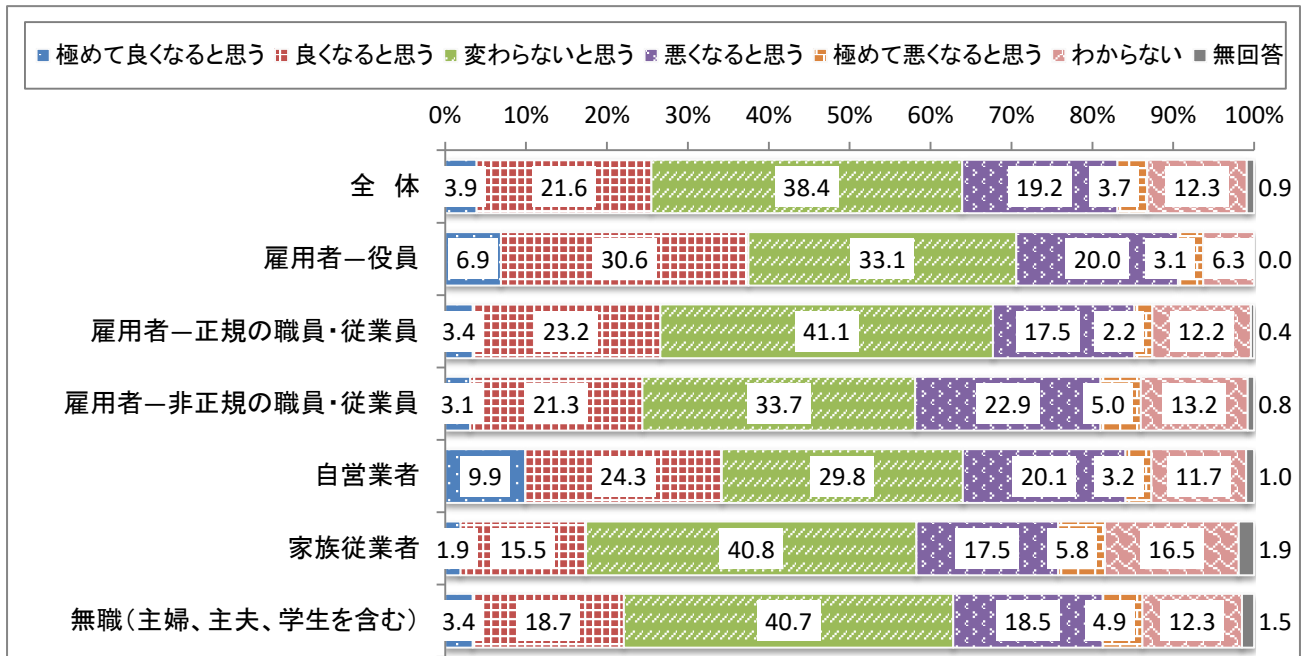
図表Ⅱ-4-34 生活状態の見通し（性別）



図表Ⅱ-4-35 生活状態の見通し（世帯年収別）



図表Ⅱ-4-36 生活状態の見通し（従業上の地位別）



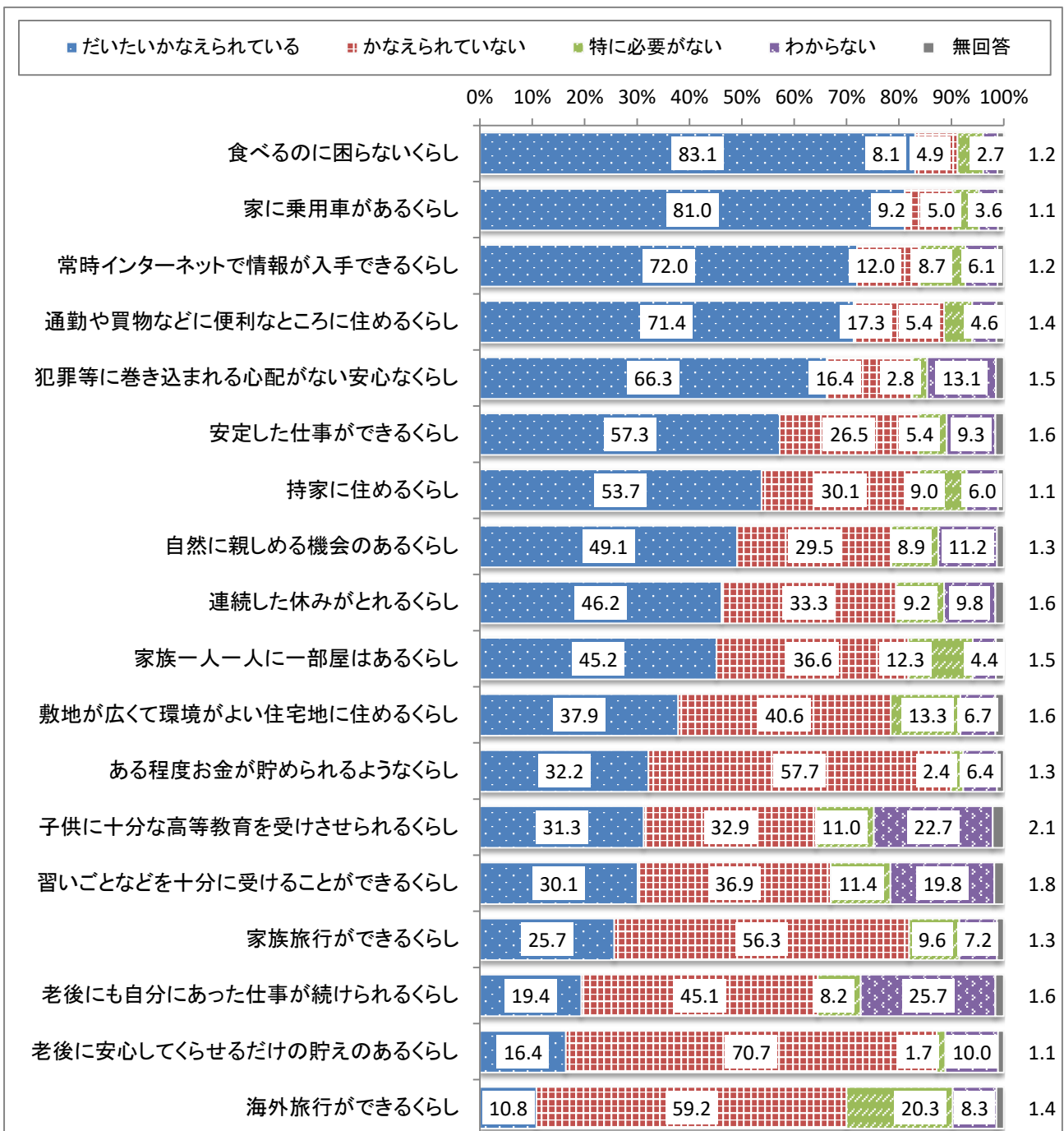
3. 生活状態（くらしむき）の希望と現在の状況（問9）

（1）生活状態の達成度と希望

生活状態の達成と希望について、「だいたいかなえられている」の割合は「食べるのに困らないくらし」（83.1%）が最も高く、次いで、「家に乗用車があるくらし」（81.0%）、「常時インターネットで情報が入手できるくらし」（72.0%）となっている。

時系列でみると、18項目中16項目で平成30年度調査より割合が高まっている。また、「安定した仕事ができるくらし」割合は平成16年度調査以降、達成度の割合が高まっている。

図表Ⅱ-4-37 達成度と希望の状況（%）



II 本調査の結果 第4章 生活領域の政策課題

図表Ⅱ-4-38 生活状態達成度（時系列比較）

(%)	令和3	平成30	平成27	平成24	平成21	平成16
食べるのに困らない暮らし	83.1	81.3	79.8	79.0	77.0	81.6
安定した仕事ができる暮らし	57.3	54.2	50.6	46.3	45.7	42.8
ある程度お金が貯められるよう暮らし	32.2	27.6	26.1	23.9	20.7	22.8
老後に安心してらせるだけの貯えのある暮らし	16.4	15.2	15.6	15.0	11.4	11.8
老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし	19.4	18.1	16.6	14.3	11.7	11.5
子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし	31.3	28.3	29.4	25.6	24.5	26.1
習いごとなどを十分に受けることができる暮らし	30.1	27.7	27.0	23.9	20.2	24.6
家に乗用車がある暮らし	81.0	77.9	79.7	76.9	77.2	81.0
常時インターネットで情報が入手できる暮らし	72.0	62.1	55.5	47.9	39.5	0.0
持家に住める暮らし	53.7	53.0	50.6	50.2	47.6	51.0
家族一人一人に一部屋はある暮らし	45.2	44.4	41.7	41.2	37.2	42.1
敷地が広くて環境がよい住宅地に住める暮らし	37.9	33.8	34.9	32.8	31.7	32.0
通勤や買物などに便利なところに住める暮らし	71.4	65.5	63.8	63.1	61.0	62.2
犯罪等に巻き込まれる心配がない安心な暮らし	66.3	61.7	60.4	52.2	54.9	48.8
連続した休みがとれる暮らし	46.2	39.1	35.7	30.3	29.9	29.8
家族旅行ができる暮らし	25.7	25.7	24.2	19.2	17.8	17.4
海外旅行ができる暮らし	10.8	12.0	11.1	10.4	7.7	7.3
自然に親しめる機会のある暮らし	49.1	44.4	43.8	0.0	0.0	0.0